

K-722

天童市埋蔵文化財調査報告書第29集

# 天童市西沼田遺跡

—第一 次 発 挖 調 査 報 告 書 —

平成15年3月

天童市教育委員会

# **天童市西沼田遺跡**

**—第一 次 発 掘 調 査 報 告 書—**

平成15年3月

**天童市教育委員会**

## 序 文

西沼田遺跡は、沼田という地名からもわかるとおり、地下水位の非常に高いところであります。

そうした環境の中、土中に眠る木製の遺物が良好に保存されてきました。建物の柱、その他の部材が多く残っていることから、建物の構造等についての貴重な資料が多く得られております。また、集落のみならず、周辺の河川や自然環境についても、これまでの調査で徐々にではありますが判明しつつあります。

本報告書は、史跡南側で確認された河川跡、溝跡等の周辺環境に関する調査をまとめたものです。建物を中心とした集落と自然環境、あるいは水田等の生産活動がセットでわかるようになれば、我々の歴史に対する理解が深まっていくことになるでしょう。

本書を今後の調査研究、あるいは埋蔵文化財に対する普及啓発の一助となるように御活用いただければ幸いと存じます。

最後に、発掘調査のために御指導、御協力いただきました地元の方々、発掘作業員のみなさまをはじめとする関係諸機関、諸氏に厚くお礼を申し上げます。

今後とも適切な御助言、御指導を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさついたします。

平成15年3月

天童市教育委員会

教育長 酒井順一

## 例　　言

- 1 本書は、国史跡・西沼田遺跡の整備に係る第Ⅰ次発掘調査の報告書である。
- 2 本書に収録した内容は、『西沼田遺跡－第Ⅰ次発掘調査概報－』(1998)において概要を報告している。なお、本報告書において、一部訂正を行っているので御了承いただきたい。
- 3 発掘調査は、天童市教育委員会が実施した。
- 4 調査要項は、下記のとおりである。

遺跡名　西沼田遺跡

所在地　山形県天童市大字矢野目3295番地

遺跡番号　山形県遺跡番号344（天童市遺跡番号114）

調査期間

現地調査　平成9年9月12日～平成9年12月1日

整理作業　平成9年12月2日～平成10年3月31日

平成14年6月1日～平成15年1月31日

調査担当

発掘調査　押野一貴（社会教育課主事）

整理作業　押野一貴

山澤護（社会教育課臨時職員）

事務局　高橋誠（社会教育課長・平成9年度）

植松憲一（　〃　・平成14年度）

長瀬一男（社会教育課主幹兼文化係長・平成9年度）

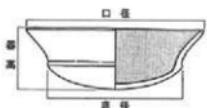
高橋秀司（　〃　課長補佐兼文化係長・平成14年度）

押野一貴

- 5 本書の執筆は、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ章の一部・第IV章を押野が、第Ⅲ章の一部を山澤が執筆し、押野が編集を行った。
- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、  
（財）山形県埋蔵文化財センター、三郷堰土地改良区、西沼田遺跡整備検討委員会、宮本長二郎、田中哲雄、北野博司、川崎利夫、荒井格の諸機関、諸氏から御指導、御協力を  
いただいた。記して謝意を表する。
- 7 本調査で出土した資料は、天童市教育委員会で一括保管する。

## 凡　例

- 1 土器の計測方法は下図のとおりである。



- 2 土層の色調の記載には、1996年版農林水産省水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』によった。
- 3 遺構平面図における■は溝跡、■は炭化材、■は土台木、■は打込杭、□は遺物集中区、□は桃の核、土層断面図における■は木材、土器実測図における■は内面黒色処理を示す。
- 4 遺物分布図掲載の土器は、赤＝壺、青＝高壺、緑＝壺・甕類、茶＝ミニチュア土器を示す。
- 5 土器観察表中の（ ）内の数値は、推定値である。
- 6 図版掲載遺物写真右下の数字は、挿図番号－番号を示す。

## 目 次

第Ⅰ章 序	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の立地と環境	1
第3節 周辺遺跡と歴史的環境	3
第Ⅱ章 調査の概要	7
第1節 調査の方法と経過	7
第2節 基本層序	8
第Ⅲ章 遺構と遺物	10
第1節 河川跡	10
第2節 溝跡	20
第3節 遺物集中区	24
第4節 遺構外出土遺物	37
第Ⅳ章 まとめ	38
引用・参考文献	39
抄録	

## 挿図目次

第1図 周辺の地形	2	第14図 河川跡出土遺物(2)	20
第2図 周辺の遺跡	4	第15図 トレンチ実測図(1)	21
第3図 グリッド設定図	7	第16図 トレンチ実測図(2)	22
第4図 基本層序	8	第17図 トレンチ実測図(3)	23
第5図 発掘区設定図	9	第18図 遺物集中区遺物分布図(1)	27
第6図 河川跡全体図	11	第19図 遺物集中区遺物分布図(2)	29
第7図 河川跡実測図(1)	13	第20図 遺物集中区出土遺物(1)	31
第8図 河川跡実測図(2)	14	第21図 遺物集中区出土遺物(2)	32
第9図 河川跡実測図(3)	15	第22図 遺物集中区出土遺物(3)	33
第10図 河川跡土層断面図	16	第23図 遺物集中区出土遺物(4)	34
第11図 拡張区東壁土層断面図	16	第24図 遺物集中区出土遺物(5)	35
第12図 河川跡遺物分布図	17	第25図 遺物集中区出土遺物(6)	36
第13図 河川跡出土遺物(1)	19	第26図 遺構外出土遺物	37

## 表 目 次

第1表 河川跡出土土器觀察表.....	40	第3表 遺構外出土遺物觀察表.....	47
第2表 遺物集中区出土土器觀察表.....	41		

## 図版目次

図版 1 遺跡全景、河川跡確認、検出状況	図版11 出土遺物(4)
図版 2 D4-a・b6区遺物出土状況	図版12 出土遺物(5)
図版 3 D4-a・b6区遺物出土状況	図版13 出土遺物(6)
図版 4 河川跡出土木材	図版14 出土遺物(7)
図版 5 河川跡出土木材、土台木、炭化材	図版15 出土遺物(8)
図版 6 土台木、 遺物集中区出土状況(1)、(2)	図版16 出土遺物(9)
図版 7 遺物集中区出土状況(3)～(5)	図版17 出土遺物(10)
図版 8 出土遺物(1)	図版18 出土遺物(11)
図版 9 出土遺物(2)	図版19 出土遺物(12)
図版10 出土遺物(3)	図版20 出土遺物(13)

## 第Ⅰ章 序

### 第1節 調査に至る経緯

西沼田遺跡は、昭和60年度に山形県営圃場整備事業の事前調査として、山形県教育委員会によって発掘調査が行われ、出土した土器や木製品等の遺物、掘立柱建物等の遺構は、<sup>は</sup>6世紀を中心とする古墳時代後期の大変貴重な資料であることがわかった。このため圃場整備の中止、遺跡の保存が決定された。

これを受けて天童市では、昭和61年7月に国指定申請を行い、翌昭和62年1月26日に国指定史跡「西沼田遺跡」として指定され、併せて、遺跡範囲約33,000m<sup>2</sup>を公有化し、保存・活用を図ることにした。

昭和63年から、西沼田遺跡の保存・整備・活用に関して、有識者による「西沼田遺跡整備懇談会」による協議が行われ、平成5年には「西沼田遺跡整備検討委員会」に改組され、年1～2度の割合で開催されてきた。そこでさまざまな検討が行われた結果、平成12年1月25日には中間答申とでも言うべき経過報告が市に対して提出された。

この検討委員会において、昭和60年度の調査で埋め戻した建築部材等の木材の遺存状況の確認、遺跡の詳細な範囲の確認、田や畑等の生産遺構の確認等が課題として提出された。

天童市教育委員会では、これらの課題を踏まえて、平成6年度から国庫補助事業として発掘調査を実施している。本報告書は、平成9年度に史跡南側で実施した確認調査の報告書である。

### 第2節 遺跡の立地と環境（第1図）

西沼田遺跡は、天童市大字矢野目字西沼田地内に所在し、天童市街地の中心部から西方約3km、主要地方道天童大江線（県道23号線）の南側に位置している。北緯38°21'、東經140°20'、標高は約90mを測る。

山形盆地は、山形県内のほぼ中心部に位置し、県内を縦貫する最上川は、盆地の西寄りを北流している。天童市はこの盆地の中央部に位置し、東は脊梁山脈である奥羽山脈、西は最上川、南は立谷川、北は乱川によって画されている。

立谷川、乱川は、それぞれ水源を奥羽山脈に発し、西方の最上川に流れ込み、増水時の土砂の流出により立谷川扇状地、乱川扇状地を形成している。立谷川扇状地は、高瀬川との複合扇状地であり、当該地の北半分が天童市域に入る。乱川扇状地も複数の支流との複合扇状地であり、半径が約11kmに及び、南半分が天童市域に入っている。これらの扇状地の扇端部には、豊富な湧泉があり、古くから人々の生活と密接な関わりを持ってきている。

また、天童市の西方を流れる最上川の右岸には、氾濫原によって形成された、幅1km程の帯状の微高地が続き、立谷川、乱川の両扇状地に囲まれた天童市西城平野部の三角形状



第1図 周辺の地形 ( $S = 1 : 5,000$ )

の地域には、天童低地と呼ばれる後背湿地が広がっている。西沼田遺跡はこの天童低地の中の微高地上に立地している。

西沼田遺跡の周辺は、遺跡の東側を流れる倉津川や、南東から北西方向にかけて流路が確認されている旧前田川によって自然堤防状の微高地が形成されている。また、沖積平野の特徴をよく示し平坦であるが、東から西に低く、南から北に低い傾斜を示している。

西沼田遺跡周辺の土壌は黒泥土壌が主体であり、現在も広範囲に水田耕作の土地利用が図られている。地層は、シルト及び粘土の土質によって形成されているが、その基盤は、第4紀完新世の個体結堆植物である礫及び砂の層から成り立っている。

乱川扇状地扇端部の湧水帯付近や、本遺跡周辺の微高地には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く分布している。比較的乾燥した微高地と、周りに広がる湿潤な低地は、水稻農耕の発達と、その後に続く集落の人々の生活を支えるうえで、非常に適した環境であったといえよう。

### 第3節 周辺遺跡と歴史的環境（第2図）

西沼田遺跡の周辺では、近年、東北中央自動車道相馬・尾花沢線の建設に伴い、蔚山形県埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施され、各時代の様相について明らかになりつつある。ここでは、これまでに調査が実施された遺跡を中心に、西沼田遺跡周辺の遺跡について概観しておきたい。なお、東北中央自動車道相馬・尾花沢線関連の調査については、現地説明資料等をもとにしていることを付記しておく。

天童市内において、旧石器時代の遺跡はまだ確認されていないが、縄文時代前期の遺跡として、上荒谷(2)、柏木(3)、地図外であるが、かくまくば遺跡等が確認されている。

上荒谷遺跡は、立谷川扇状地の扇頂部に位置し、出土した土器片や、石鎚、土偶などから縄文時代前期初頭の遺跡と考えられる。ここで出土した土偶は高さ7.5cmで、頭部と両腕を胴体部に含めた素朴なもので、県内最古の土偶の一つである。

中期から後期前半にかけては、伝覚平(4)、上貫津(5)のように山麓の湧水地または小河川の付近や、清泡(6)、中里B(7)のように扇状地の湧水地に多くの分布が見られる。平成10年度に山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した板橋1遺跡(8)においては、中期前葉の大木7a式と後期中葉の土器の2つの時期の遺物が出土し、貴重な調査例として注目されるところである。

後期後半から晩期にかけては遺跡数が増加し、高木石田(9)、白山堂(10)、毘沙門寺(11)、綿掛B(12)等、扇状地扇端部の湧水帯や後背湿地上の微高地に遺跡の分布がみられるようになる。西沼田遺跡周辺の矢野目地区では、遺跡の南に位置する矢口遺跡(13)から、堅穴住居跡と土器や石器等が、西側の願正塙遺跡(14)からも少量ではあるが縄文土器等が出土している。

また、立谷川扇状地の扇央部側縁に位置する宮田遺跡(15)からは、多くの土器や石鎚、



第2図 周辺の遺跡 (S = 1 : 50,000)

石錘、石匙、凹石、土製品が出土している。

後期後半から晩期、弥生時代にかけての遺跡は、乱川扇状地の扇端部付近である成生地区の微高地に多く、地蔵池A(16)、金谷(17)、熊野堂前(18)、瓜小屋(19)等が挙げられる。なかでも地蔵池A遺跡からは、炉と思われる集石遺構を伴った住居跡の一部が検出されたほか、やや離れた地点より埋甕の遺構も検出されている。

また、立谷川扇状地の前縁部に位置する砂子田遺跡(20)からも、縄文時代後期の集落跡が検出され、その西側から、埋甕と思われる深鉢が大量に出土している。

古墳時代の遺跡は、扇状地の扇端部から天童低地まで、最上川の氾濫原の東端に沿って遺跡が広く分布している。

古墳時代前期の遺跡としては、塚野目A(21)、高木原口(22)、板橋2(23)、中期では同じく板橋2(24)、的場(25)、藏増押切(25)、後期では西沼田(1)、願正塙(1)、鍋田(26)等が挙げられる。

なお、板橋1・2、的場、藏増押切、砂子田遺跡は、山形県埋蔵文化財センターにより、東北中央自動車道相馬・尾花沢線の建設事業に伴って発掘調査された遺跡である。

板橋2遺跡からは、第2次調査において、西沼田遺跡よりも古い古墳時代前期塩釜式の土師器が竪穴住居跡より出土し、また第3次調査においては、古墳時代中期南小泉式の土師器が炉跡を伴った竪穴住居跡より出土している。

的場遺跡からも、同じく古墳時代中期の土師器が炉跡を持つ竪穴住居跡から出土しているが、板橋2遺跡より時代は新しいようである。

藏増押切遺跡では、古墳時代中期の竪穴住居跡が河川跡を挟んで帯状にのびている様子をみることができる。

古墳に関しては、原形をとどめているものはほとんどなく、高擣地区の上遠矢塙古墳(27)がわずかに墳丘の面影を残している。

この古墳の西側には、下遠矢塙古墳(28)があったといわれているが、明治35年の高擣小学校建設の際に、土砂として利用され失われてしまった。

ほかに、遠矢塙古墳の南、清池八幡神社の近くにも火矢塙1号墳(29)、2号墳(30)が並んでいたといわれているが、昭和27年頃の圃場整備により崩壊し、明治初年の地籍図にその存在を確認するのみとなっている。1号墳からは、割竹形木棺が出土したといわれているが定かではない。

上遠矢塙古墳は、昭和50年から51年にかけて天童市史編さん室によって発掘調査が行われているが、その結果、径24m前後の円墳で、外周には幅5m前後、深さ0.5mから1.2mほどの周濠が巡っていたこと、墳丘の崩れを防ぐため版築で土を盛り固めた後、墳丘の下部と上部の墳頂を囲むように幅約1mの礫石帯が葺石状に張り付けられていたことが明らかになった。

ただ、明治12年の県道改修の際に行われた発掘調査で出土した、甲冑、刀剣、頭蓋骨、

歯骨、甕等の遺物は、現在全く所在不明であり、当事の村役人から天童警察分署へ提出された書類の中にみえるのみである。

古墳時代も終末にさしかかると、鍋田や高木原口、願正塙遺跡など、低湿地への進出が進むほか、山麓や河川の谷奥部に至るまで遺跡の分布がみられるようになる。

古墳の形態も、八幡山古墳(31)や成生古墳群(32)にみられるような群集墳がつくられ始める。

奈良・平安時代にはいると、律令体制の整備に伴い条里制が施行されるが、天童市内においても8世紀後半には施行されていたと推測される。二条里遺構(33)や千刈条里遺構(34)にその名残を認めることができるほか、明治初年の地籍図などで、高瀬地区、成生地区、貫津地区などに広くその痕跡をみることができる。

集落跡は、老野森の光戒塙遺跡(35)や温泉の北側にある千刈(36)、糠塙を含む一帯と、清池の西側の礼井戸(37)、芳賀の東の桜段(38)、岡屋敷(39)、芳賀古屋敷(40)、現長岡団地の中里B(41)などの立谷川扇状地の扇央部や、中袋(42)、塙野目B(43)、小矢野目(44)、地蔵池B(45)、藏増北B(46)などの扇状地扇端部に遺跡が多く分布している。

同じ時代の窯跡は、市内では、石倉窯跡(47)、貫津御阿弥陀窯跡(48)、二子沢窯跡群(49)、原崎古窯跡群(50)、瀬戸山古窯跡(51)、荒井原窯跡(52)、谷地中窯跡(53)等が確認されており、需給関係等の解明が待たれる。

中世においては、藏増押切、二階堂(54)、高野坊(55)など、成生庄関係の遺跡が目立つ。成生庄は、現在の天童市のほぼ全域を含み、安元2年(1167)「八条院目録」に「出羽国大山成生」として記載されていることから、12世紀頃には成立していたと考えられる。

二階堂遺跡は、大清水の北に位置する、一辺120m、つまり方一町が幅約12mの濠で囲まれた一画である。「二階堂」や「二階堂池」などの地名から、鎌倉幕府の地頭二階堂氏の館、もしくは、成生庄を管轄する政庁跡ではないかと考えられている。

また、この遺跡のすぐそばには高野坊遺跡があり、平成8年度に天童市教育委員会が実施した調査において、成生庄や時宗の動向を示す墨書碑が多量に出土し、当事の様相が明らかになりつつある。また、藏増押切遺跡からは古墳時代の遺物・遺構が出土した範囲よりもさらに南側の地区から、掘立柱建物跡、井戸跡などが検出され、有力豪族の屋敷跡ではないかと推測され、注目されるところである。

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 第1節 調査の方法と経過

発掘調査は、平成9年9月12日～12月1日にかけて実施した。整理作業は、平成9年12月2日～平成10年3月31日まで実施し、調査概報を刊行した。その後、平成14年6月1日より整理作業を再開し、平成15年1月31日までの期間で実施し、本報告書の刊行を行った。本調査の目的は、史跡指定地南側における遺構・遺物の分布状況の確認を目的としたものである。

グリッド設定は、史跡指定範囲及び北側水田域に対して40m方眼の大グリッドを設定し、東西方向にアルファベット（大文字）を、南北方向に数字を付した。また、それぞれの大グリッドに4m方眼の小グリッドを設定し、東西方向にアルファベット（小文字）、南北方向に数字を付して呼称している（第3図）。

調査区の設定は、B4-e3区～F4-b4区にかけて東西方向のトレンチを150m、D3-f6区～D4-f8区にかけて南北方向のトレンチを52m設けて遺構・遺物の確認を行った。D4-b3区～D4-c3区にかけて河川跡を確認することができたため、D4-a1区～D4-e6区にかけて、東西16m、南北22mの拡張区を設けて発掘調査を実施した（第5図）。

拡張区は、13棟の掘立柱建物跡、多量の建築部材、木製品等が出土した昭和60年度調査区の南側にあたる。

調査の結果、D4-a6区～D4-e1区にかけて、ほぼ南北方向を向く河川跡を検出することができた。河川内からは自然木のほか、建築材、打込杭、まとまった土器群を検出することができた。

また、D4-a1区において遺物の集中区を確認することができた。ここからは、個体数にして100点を超える遺物が出土した。集中区は、北西方向に分布域が広がっていると考えられる。

拡張区、東西方向のトレンチともに建物跡を検出することができなかったことから、集落（居住域）の南限は河川跡の北側までであるとわかった。

A										
a1	b1	c1	d1	e1	f1	g1	h1	i1	j1	
a2	b2									
a3		c3								
a4			d4							
a5				e5						
a6					f6					
a7						g7				
a8							h8			
a9								i9		
a10									j10	

第3図 グリッド設定図

## 第2節 基本層序

基本的な堆積状況は、第Ⅰ層2.5Y4/2 黒色土、第Ⅱ層5Y2/1 黒色粘質土、第Ⅲ層7.5 Y2/1 黒色土、第Ⅳ層7.5Y3/2 オリーブ黒色粘土、第Ⅴ層7.5Y5/1 灰色粘土である。第Ⅱ層については分層可能な地点のみa・b層に分層している。

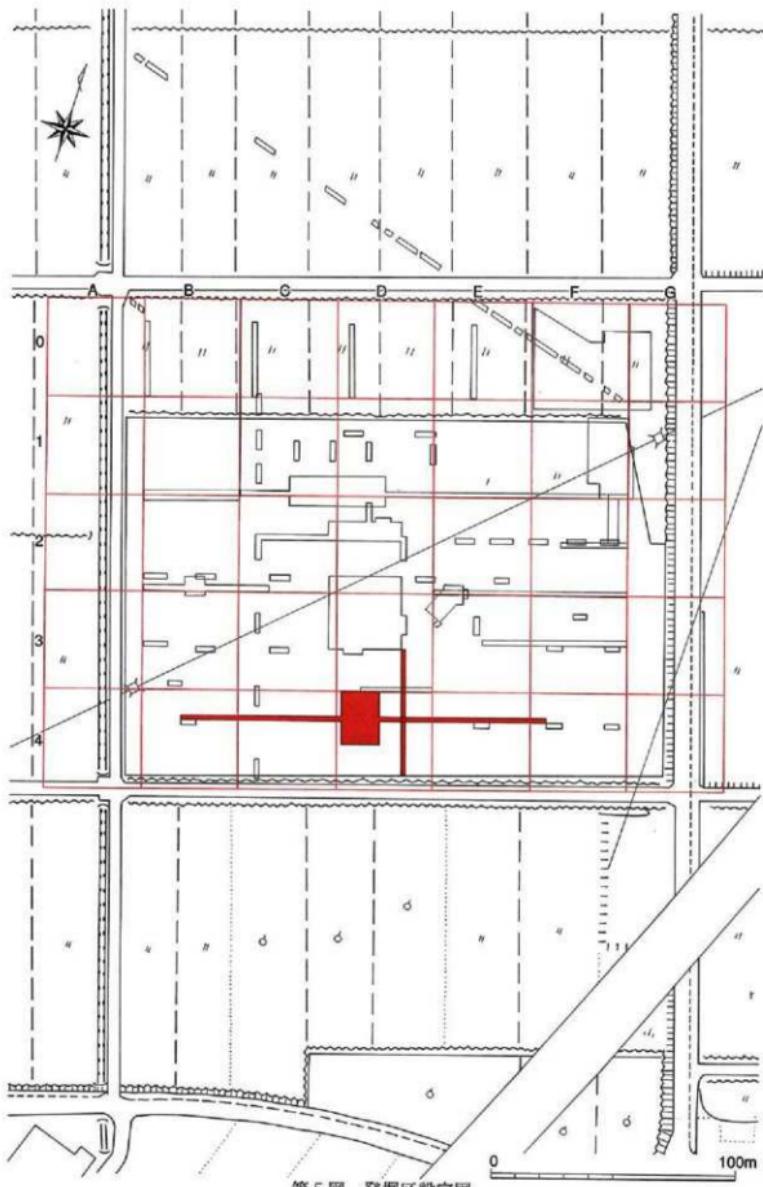
第Ⅰ層が表土、第Ⅱ層が奈良・平安時代、第Ⅲ層が古墳時代の遺物包含層である。平成12年度の調査の際、テフラの分析を行ったところ、第Ⅱ層中に十和田aテフラ（915年）が堆積していることがわかっている。また、第Ⅲ層中のテフラは、棟名ニツ岳伊香保テフラ（6世紀中葉）の可能性が指摘されている<sup>11)</sup>。第Ⅴ層は地山である。

なお、指定地外北側水田域の調査（平成11～13年度実施）の際、層位区分をアラビア数字で1～17層に分層しているが、指定地内との対比は下記のとおりである（第4図）。

註1 韓国環境研究所2002「西沼田遺跡の自然科学分析」『天童市西沼田遺跡一周辺発掘調査報告書』天童市埋蔵文化財調査報告書第28集

2.5Y4/2 黒色土	↓	第1層	10YR2/3 黒褐色砂質土
5Y2/1 黒色粘質土		第2層	10YR2/1 黒色砂質土
5Y2/1 黒色粘質土		第3層	10YR2/3 黑褐色砂質土
7.5Y2/1 黒色土		第4層	2.5Y4/1 黄灰色砂質土
7.5Y3/2 オリーブ黒色粘質土		第5層	2.5Y4/1 黄灰色砂質土
7.5Y5/1 灰色粘土		第6層	10YRA/1 灰灰色砂質土
10YR1.7/1 黒色粘土	↓	第7層	5Y3/1 オリーブ黒色粘質土
	↓	第8層	2.5Y2/1 黑色粘質土
	↓	第9層	10YR3/2 黑褐色粘質土
	↓	第10a層	10YRA/1 灰灰色粘質土
	↓	第10b層	5Y5/1 灰色粘土
	↓	第10c層	10YRA/1 灰灰色粘土
	↓	第10d層	5Y5/1 灰色粘土
	↓	第11層	2.5Y3/1 黑褐色粘土
	↓	第12層	10YR2/1 黑色粘土
	↓	第13層	2.5Y2/1 黑色粘土
	↓	第14層	2.5Y3/1 黑褐色粘土
	↓	第15層	5Y2/1 黑色粘土
	↓	第16層	10YR1.7/1 黑色粘土
	↓	第17層	5BG5/1 青灰色シルト

第4図 基本層序



第5図 発掘区設定図

### 第Ⅲ章 遺構と遺物

#### 第1節 河川跡（第6～14図）

D4区において河川跡が確認された。主軸方位はN-10°-Eである。最大幅680cm、最小幅450cm、深さ約50cmを測る（第6図）。覆土は、第1層黒色シルト、第2層黒褐色砂質シルト、第3層にぶい褐色砂層である（第11図）。

河川内からは多量の自然木、建築部材等が出土している。

D4-a・b6区で打込杭2本のほか建築部材が検出された（第7図）。この2本の杭の軸と、平行、直交する建築材が検出されている。①は端部が二又に分かれるもので、柱材が折れたものと考えられる。②付近の材は、東西方向の材に対して、2本の材が南北方向に直角に交わっている。

これらの部材の出土状況から、①が桁もしくは梁を受けるための柱であるとすると、建築遺構があった可能性がある。D4-a・b6区からは、完形もしくは半完形の土器群がまとまって出土したほか、桃の核が径15cmの範囲からまとまって出土しており、建築物を伴う水場遺構、もしくは水場に関わる祭祀遺構であろうか。

D4-b4区出土の材（③）は、若干太めの材に孔を穿ち、その中に細い材が直交、平行に組まれたまま、孔の中に通されているものである（第7図）。

D4-b2区からD4-c4区にかけて出土している大型の丸太材（④～⑥）は、本来1木であった可能性も考えられる（第8図）。⑤には4箇所にわたって切り込みが施されており、建築材もしくは木製品として加工する予定のものであろうか。

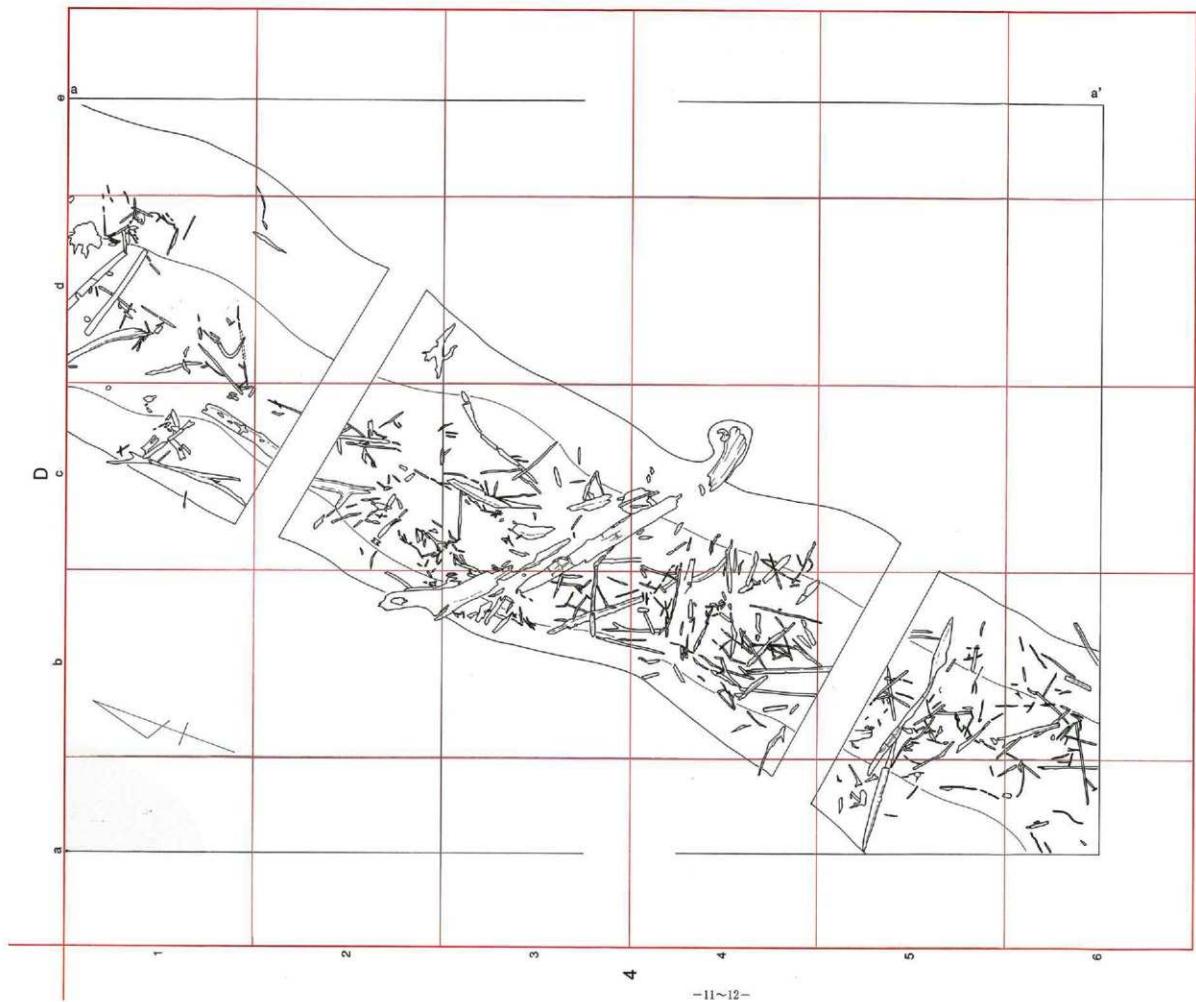
D4-c・d1区において打込杭が3本、周辺部から炭化した板材が2枚、土台木と考えられる部材が2本確認された（第9図）。

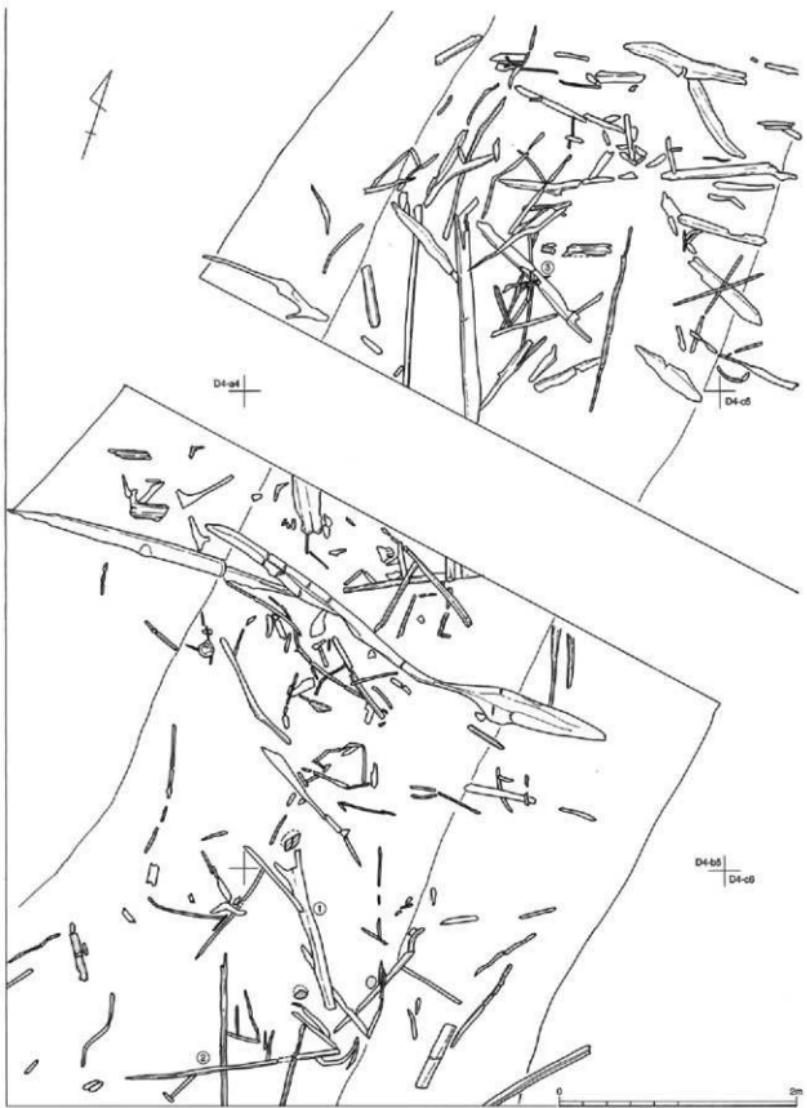
炭化した板材は、⑦が、最大幅18cm、厚さ1～2cm、⑧が長さ220cm、幅13～14cm、厚さ約1.5cmである。⑦は、直径約8cmの丸い孔が穿たれている。また、これらの材に直交、平行して細めの部材が検出されており、打込杭、板材、加工痕と合わせると、下流から流れ込んできたものではなく、この場所においてなんらかの建築遺構が存在した可能性が考えられる。

D4-c1区で土台木が検出されている。⑨は長さ180cm以上、幅約25cm、厚さ約20cmの角材に、長径10cm前後のほぞ孔を15～25cm間隔であけたものである。また、端部には、凹型の切り込みがみられる。⑩は、長さ約60cmと小振りであるが、ほぼ中央部分に長径6cmのほぞ孔が穿たれている。

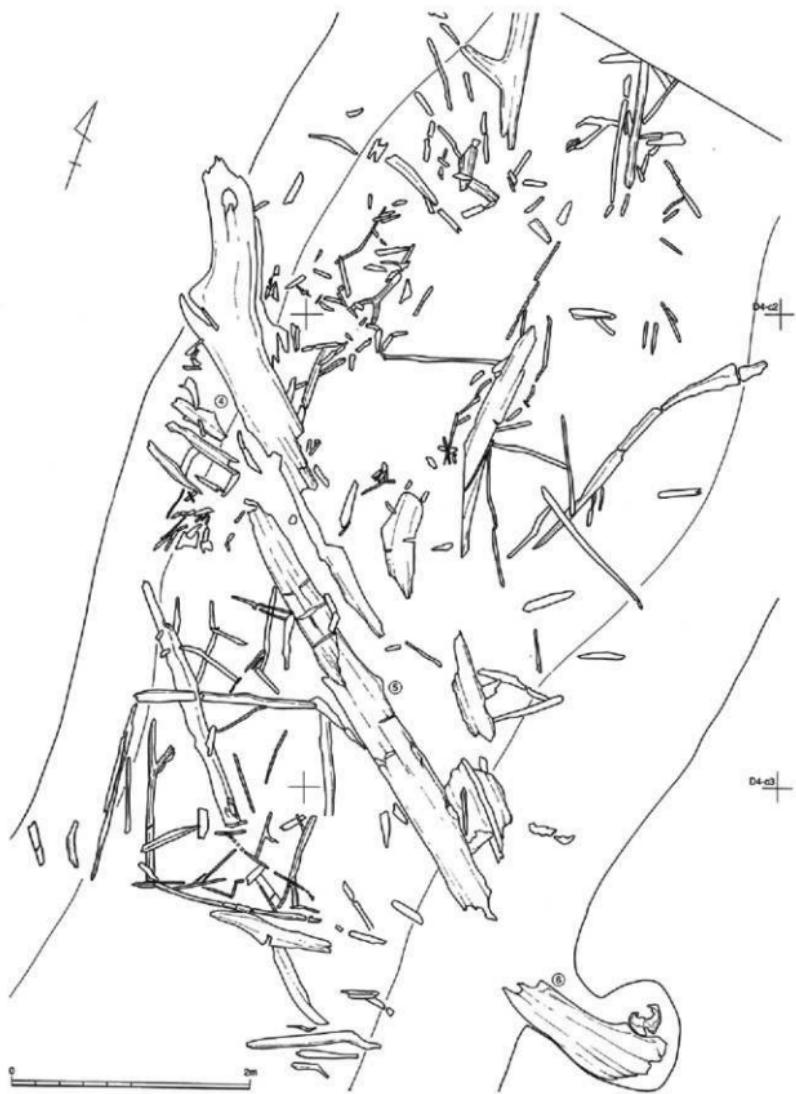
比例尺

第6図 河川断面図

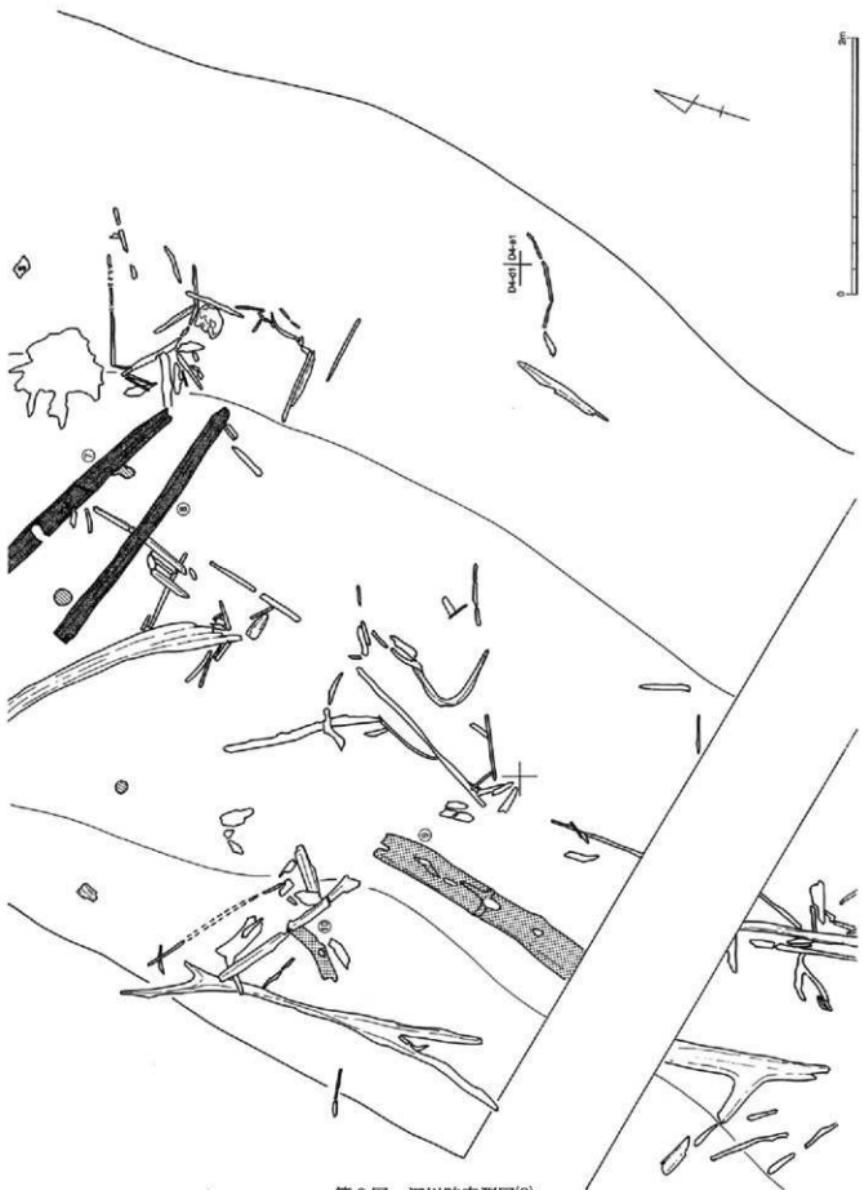




第7図 河川跡実測図(1)



第8図 河川跡実測図(2)



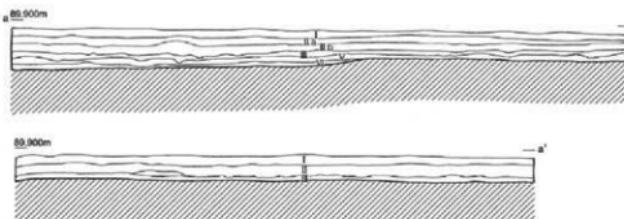
第9図 河川跡実測図(3)

89.500m



第1図 河川跡土層断面図  
第1層 10YR1.7/1 黒色シルト  
第2層 7.5YR3/1 黒褐色砂層  
第3層 7.5YR5/4 にぶい褐色砂

第10図 河川跡土層断面図



第11図 拡張区東壁土層断面図



遺物は、D4-c 1区及びD4-a・b 6区で出土した。そのうちD4-c 1区出土3点、D4-a・b 6区出土23点を図示した。

1～23は、D4-a・b 6区出土のものである（第12・13図）。ほとんどのものが完形もしくは半完形で出土している。

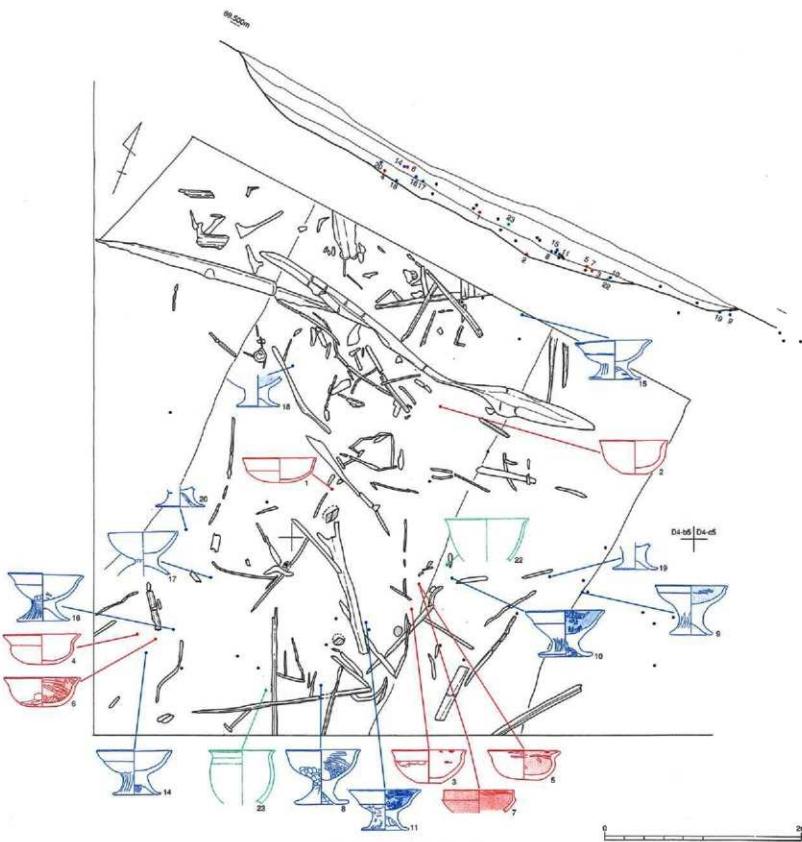
分布状況をみると、部材に沿って出土しており、空白部分からの出土はほとんどない。そのうちの数点ずつはまとめて出土しており、4・6・12・16の一群、3・5・7・10・22の一群にまとめることが可能である。その他の土器も近接した場所から出土している。

出土層位は、覆土第2層からのがほとんどであるが、第3層中に食い込んで出土しているものもある。

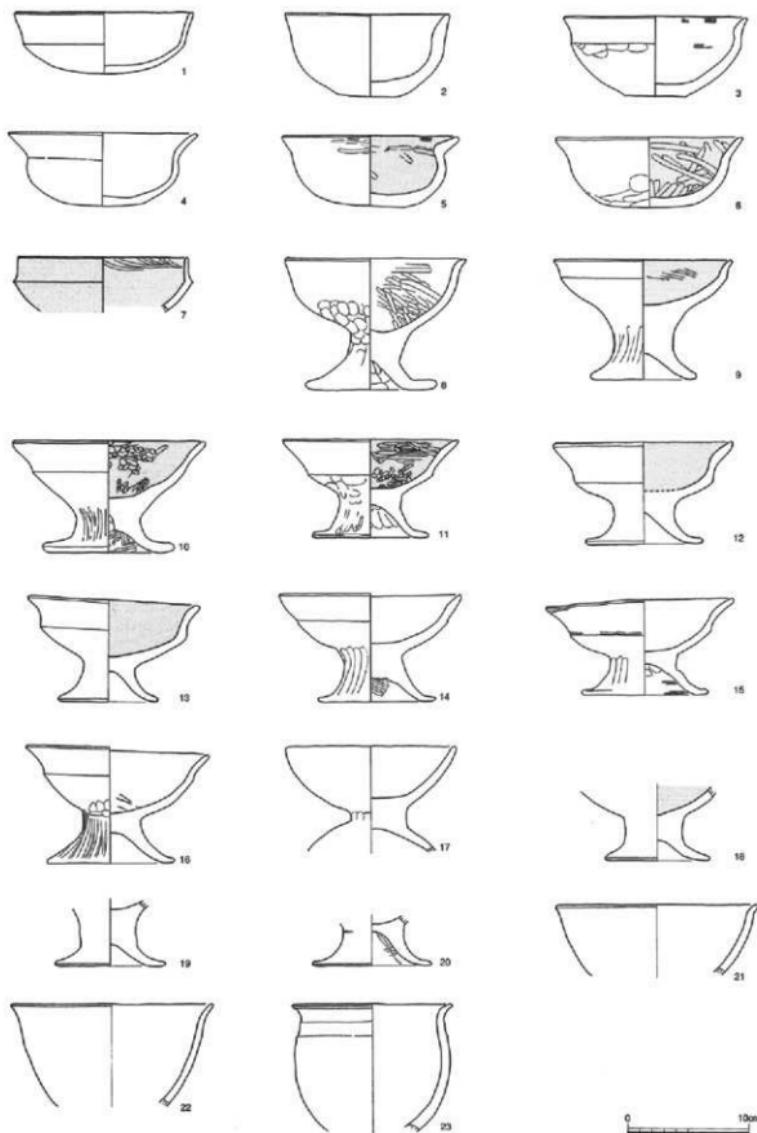
器種構成は、壺が7点、高壺が13点、碗が2点、壺が1点であり、壺、高壺の供膳具が主体となる。

1～7は壺である。1は、体部中位に段を有し口縁が直立気味に立ち上がる。2・3は明瞭な平底の底部を有し、体部が内湾気味に立ち上がり、内面に稜を有し口縁が短く外反する。4～6は、丸底に近い平底で、口縁が外反する。4は体部上端が外側に緩く膨らむ。5・6は体部が内湾気味に立ち上がり、内面に緩やかな稜を有する。7は須恵器模倣壺で、口縁部が内傾し、体部との境で稜を形成して底部に至る。5・6は内面黒色、7は内外面ともに黒色処理が施されている。

8～20は、高壺である。8の壺部は、内湾する体部と短くつまみだされる口縁部をもつ。9の壺部は、内湾気味に立ち上がる体部と外反する口縁部を持ち、口縁部と体部の境に段



第12図 河川跡遺物分布図



第13図 河川跡出土遺物(1)

を有する。10・11の坏部は、直線的に外傾する体部から、段を有して緩やかに外反し口縁に至る。12・13の坏部は、口縁部下端に直立部を形成し、口縁部が外反する。14は口縁部と体部の境に段を有し、口縁部は外傾する。15・16の坏部は、体部中位外面に稜を形成し口縁部が外反する。17は、体部から口縁部にかけて内湾してそのまま立ち上がる。脚部は17を除き何れも、八字状に開き、裾部が短く外側にのびるものである。9～11・12・13・18は、坏部内面に黒色処理が施されている。

21・22は、碗である。体部が内湾して立ち上がり、口縁が短く外反する。いずれも内面にナデ調整を施している。

23は、壺である。口縁部から頸部にかけて2段の稜を有する。外面にナデ調整を施している。

24～26は、D4-c1区出土のものである（第14図）。24・25は土師器坏である。24は、口縁部下端に直立部を形成し、口縁部が外反する。25は、体部下半に稜をもち、口縁は直線的にV字状に立ち上がる。24・25は内面に黒色処理が施されている。26は、甌である。単孔式のものである。



第14図 河川跡出土遺物(2)

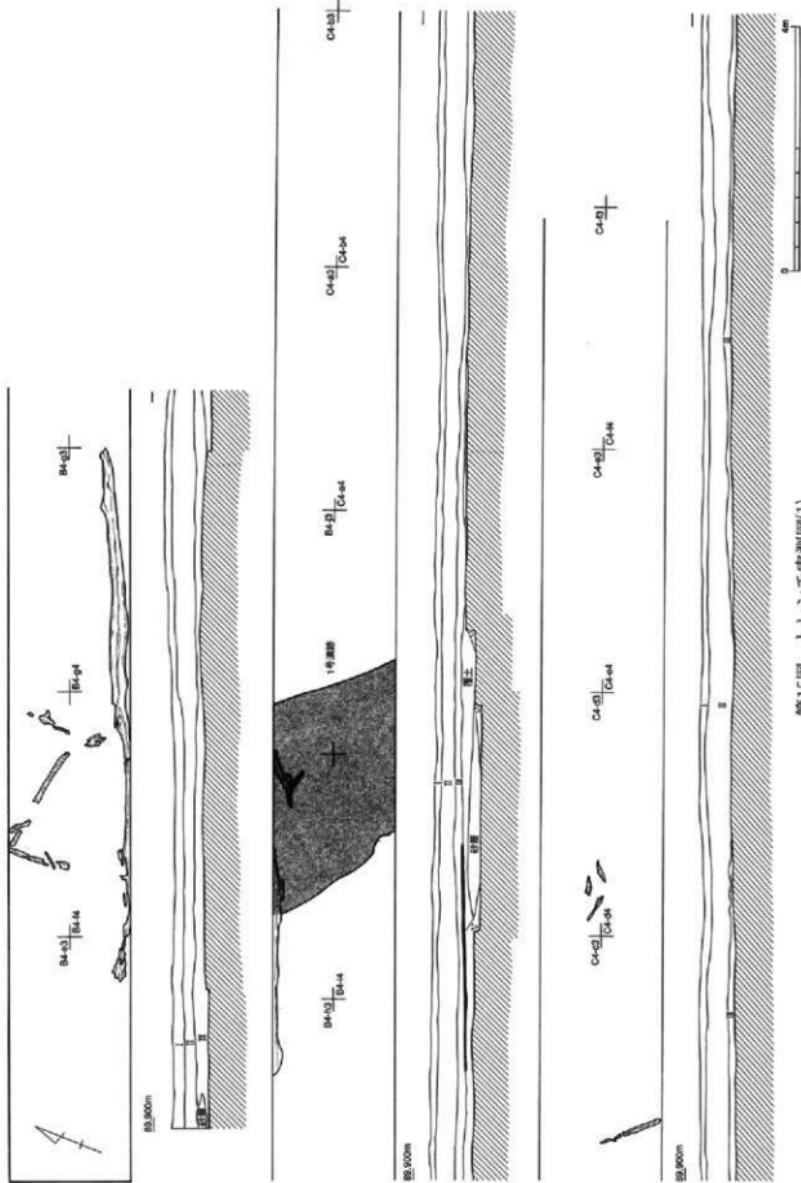
## 第2節 溝跡（第15・17図）

### 1号溝跡（第15図）

B4-i3～B4-j4区で確認された。上面幅約300cm、深さ約30cmを測る。軸方向はN-43°-Wである。上面に板材が載っているが、覆土中からの遺物、部材等の出土はみられない。

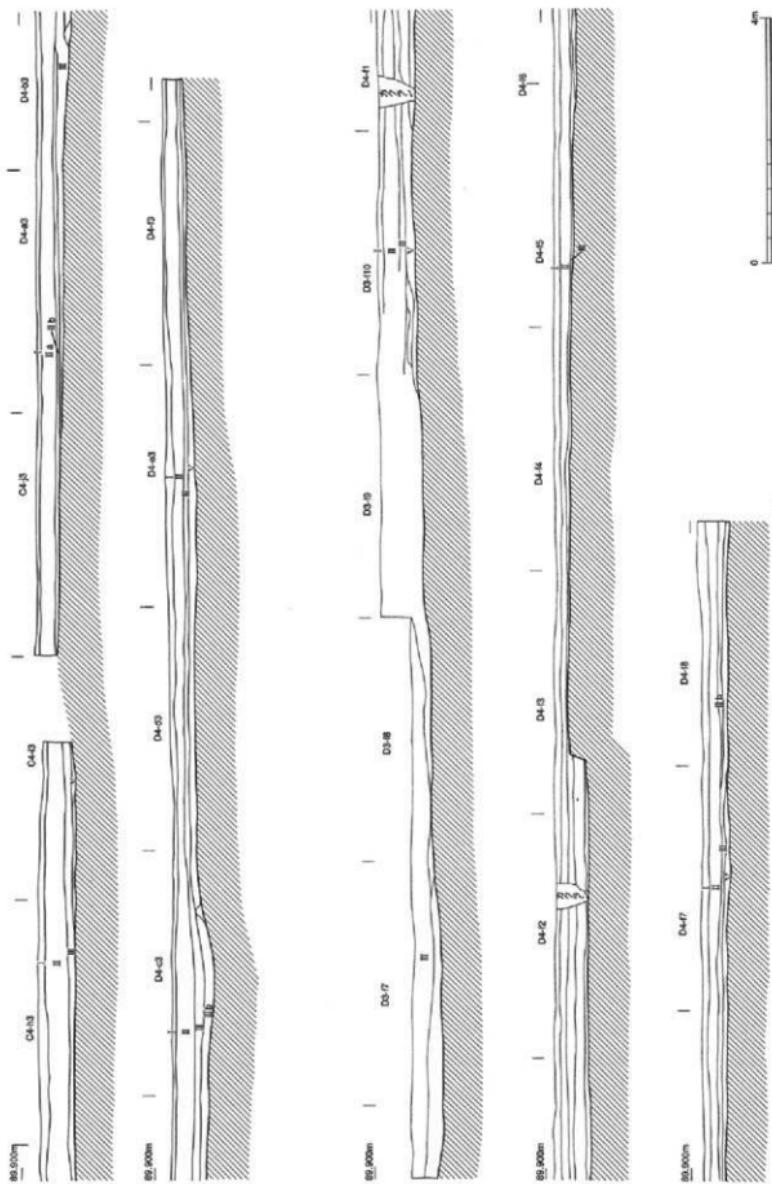
### 2号溝跡（第17図）

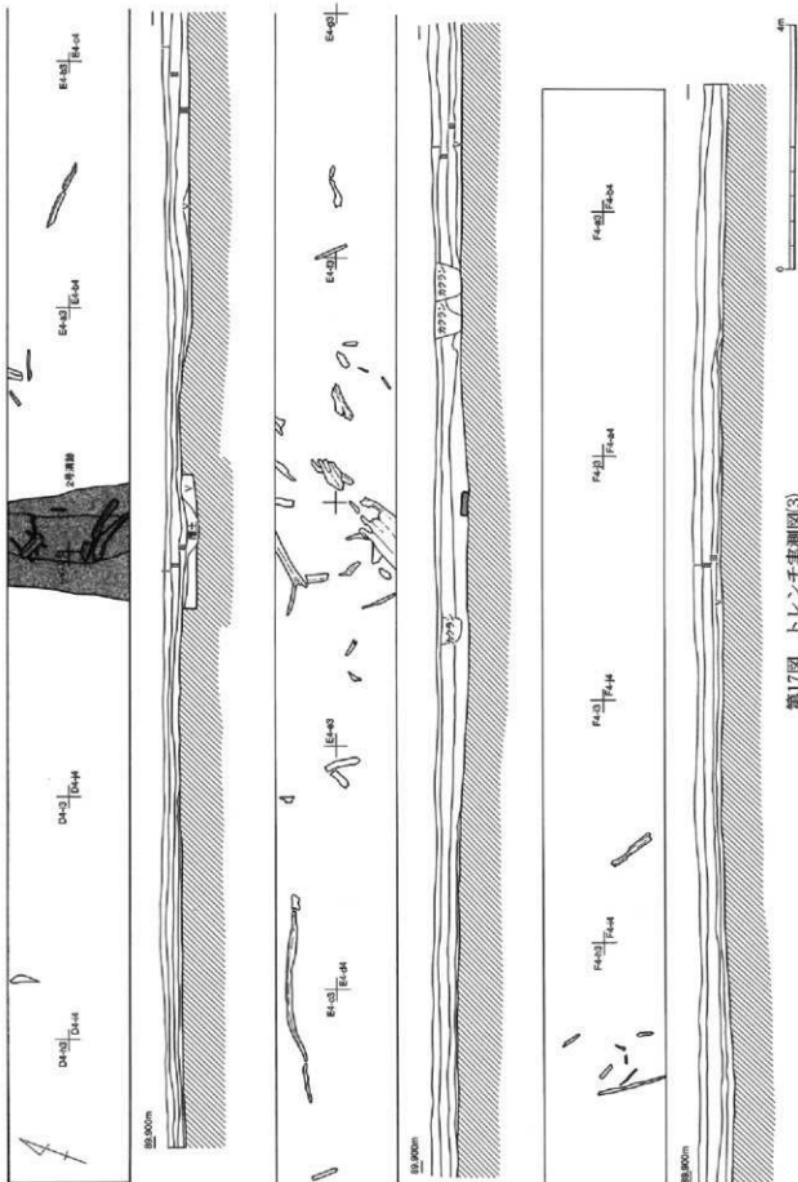
D4-j3～E4-a4区で検出した。上面最大幅200cm、上面最小幅約135cm、底面幅70cm、深さ約20cmを測る。軸方向は、N-21°-Wである。溝底面から部材が若干出土しており、北側のものは意図的に組み合わされている可能性がある。



第15図 トレンチ実測図(1)

第16図 トレンチ実測図(2)





第17図 トレンチ実測図(3)

### 第3節 遺物集中区（第18～25図）

D4-a・b1区で遺物の集中区が確認された。ほぼ1m四方の範囲から100点を超える遺物が出土している。その内復元可能なものの129点を図示した。

器種構成は、壺81点、高壺11点、壺4点、甕27点、甌1点、ミニチュア土器6点である。遺物の分布は、壺は、全体からまんべんなく出土するが、特にD4-a1区北西隅から多く出土している。30・38・45・46の1群、50・51の1群、17・37の1群、5・41・60の1群、20・28の1群は同一地点から一括して出土している。高壺は、D4-a1区北西隅に、ミニチュア土器は、D4-a1区南側からまとまって出土している。壺、甕類は、集中区の縁辺部からの出土が多い。また、甕のうち、100・109・112は、同一地点からの出土である。これら同一地点からの出土土器群は、一括して廃棄された可能性が考えられる。

壺、高壺は北西部から、その他の土器は縁辺部から出土する傾向がみられることから、それぞれの器種単位での廃棄場所に一定のルールがあったことが想定される（第18・19図）。

1～81は、壺である。1～4は丸底の底部を有し、体部が内湾して立ち上がり、そのまま口縁に至る。2は底が狭い。5～10は底部が平底の1群である。5は体部が外傾しながら立ち上がり、口縁部が短くつまみだされている。6～8は、底部から体部にかけて緩やかに内湾して立ち上がり、内面に緩やかな稜を形成し口縁が短く外反する。8は、内湾の度合いが強い。9・10は、体部の立ち上がりがより直線的に外傾し、口縁が緩やかに外反する。11・12は平底に近い丸底で、体部から口縁部にかけて緩やかに外反しながら立ち上がる。13・14は、丸底で体部が内湾気味に立ち上がり、口縁が短くつまみだされている。15も13・14同様の形態であるが、より器高が深い。16～18は、丸底で、口縁が外側に外反するが、16はその度合いが小さい。19～21は、丸底で口縁が外反し、内面の口縁と体部の境に明瞭な稜を形成する。22は体部外面に段を有する。段の位置は高めである。口縁は短く外反する。23・24は、体部中位外面に段を有し、口縁部下端に直立部を形成し、口縁が大きく外反する。24は高壺の壺部であろう。25～32は体部中位から若干下位に段を有する。段からの口縁部までの立ち上がり部分が直立的で、その後外傾して直線的に立ち上がる。32は、口縁が外側に大きく開く。33は、丸底で口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。内面に緩やかな稜を有する。34～55は、外面に稜を有し、口縁と稜が接する部分が内側にくびれる1群である。34はくびれが強く、口縁が短い。口縁部内面が稜をもつように張り出す。35は器高が深く、球形に近い丸底である。口縁部内面が稜をもつように張り出す。36～38は、平底にちかい扁平な丸底で口縁が外傾しながら直線的に立ち上がる。37・38は、口縁部内面が稜をもつように張り出す。39は、くびれ部分が長く、口縁端部が外反する。40は短く直立したあと外傾して直線的に口縁が立ち上がる。41～44はくびれ部分が短く、口縁はそれほど外に開かず直線的に立ち上がる。45は、くびれが短く、口縁がほぼ直立する。球形に近い丸底で、器高が深い。46・47は、口縁が外傾して直線的に立ち上がる。48～51は、稜の直上が短くくびれる。48は、口縁が外傾して直線的に立ち上がる。49・50

は若干外反する。51は口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。52はくびれが強い。口縁端部が短く外反する。53は、体部から口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。なお、46～53は、口縁部内面の屈曲がみられなくなり、底部からなめらかに立ち上がるものである。54は稜直上が直立し、口縁が外反する。内面には屈曲がほとんどみられない。

55は、丸底で体部が大きく外側に開く。内面の底部と口縁部の境に屈曲点を有する。56は、体部から口縁部にかけて大きく外側に開きながら直線的に立ち上がる。57・59は平底に近い丸底で、稜の位置がより下方にある。底部中央がわずかにくぼむ。58は、体部が直立して立ち上がり、口縁が外反する。稜の位置は低い。60は、扁平な丸底で稜の位置が低く、体部が大きく外側に開きながら立ち上がり、口縁がわずかに内湾する。61は、丸底で体部が直立気味に立ち上がり、口縁が大きく外側に開く。62は、外側の稜が明瞭でなくなり、体部が大きく外側に開きながら立ち上がる。63は、外面の屈曲点から体部が外側に開いて直線的に立ち上がる。稜が明瞭でなくなり、位置が低い。64・65は、丸底で、体部が外側に開きながら直線的に立ち上がる。66は、平底に近い丸底で、屈曲点の位置が低い。わずかに直立して立ち上がった後、大きく外傾する。67は66に比べて屈曲点の位置が若干高い。68・69は、体部が外傾して直線的に立ち上がる。70は、底部が扁平で、体部が外反する。71は体部が外反して立ち上がる。72は、丸底で口縁が外傾して直線的に立ち上がる。73は、体部が外反して立ち上がり、口縁部がわずかに内湾する。74は、丸底で体部が外反し、口縁部が外側に直線的に立ち上がる。75は、丸底で、体部が外側に大きく開きながら直線的に立ち上がり、口縁端部がわずかに外側につまみ出されている。76～78は、丸底で体部が長く、外側に大きく開きながら直線的に立ち上がる。79は須恵器身模倣坏である。口縁部が内傾し、体部との境で稜を形成して底部に至る。80は、体部が外側に丸みをもつて張り出す。口縁部は短く外傾する。81は、大型で段を有する。口縁は若干外傾しながら直線的に立ち上がる。

4～22、24～28、30～33、35～45、47・48、50～59、64～81は、内面に黒色処理が施されている。

82～92は、高坏である。82は坏部に段を有し、口縁が外側に大きく開きながら立ち上がる。脚部は直立に近く裾部で外側に開く。83は、坏部に段を有し、口縁が外反する。脚部は八字状に開く。84は、体部が内湾し、口縁が外反する。85～92は高坏の脚部である。85～87は脚部が直立し、裾部が外側に大きく広がる。88～92は、直立した脚上部をもたず、脚部から裾部にかけて八字状に大きく広がる。82・83・88は、坏部内面に黒色処理を施している。

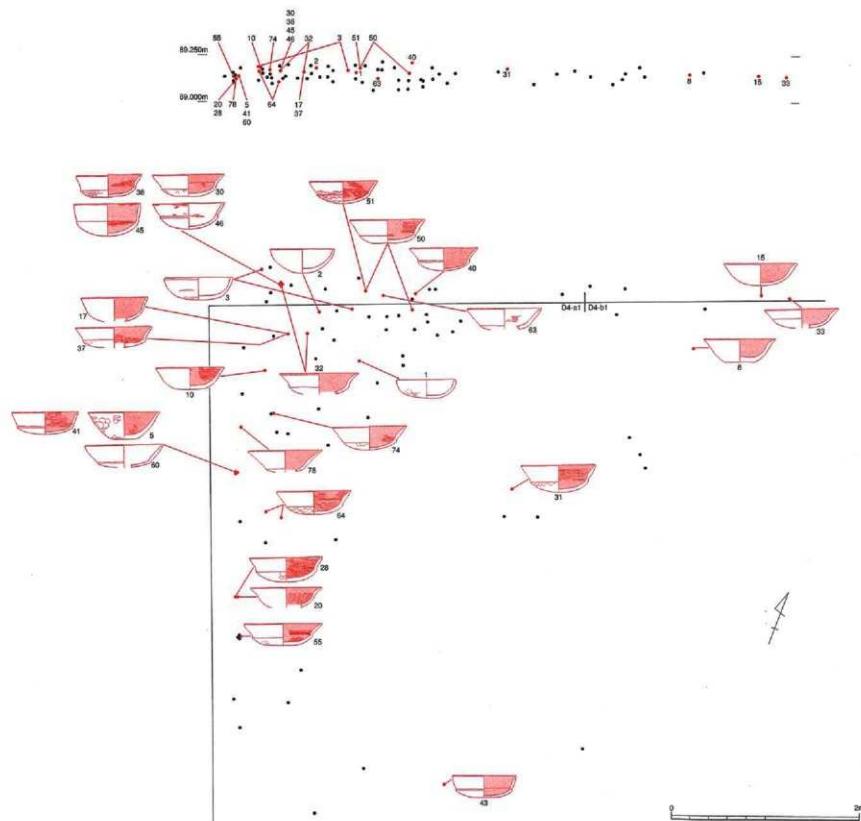
93～96は、壺である。93は、頸部がくびれ、口縁が短く外傾する。94は、平底に近く、中央部が若干くぼむ。口縁部径が胴部径より小さい。頸部のくびれが弱く、胴部が丸みをもつ。口縁は直立して立ち上がる。95は、丸底で、口縁径が胴部径より小さく、口縁部がわずかにつまみ出されている。器高が高い。底部にくぼみを持つ。96は、口縁部径が胴部

径より小さく、口縁部が短く外反する。内外面にゆるやかな段を形成する。

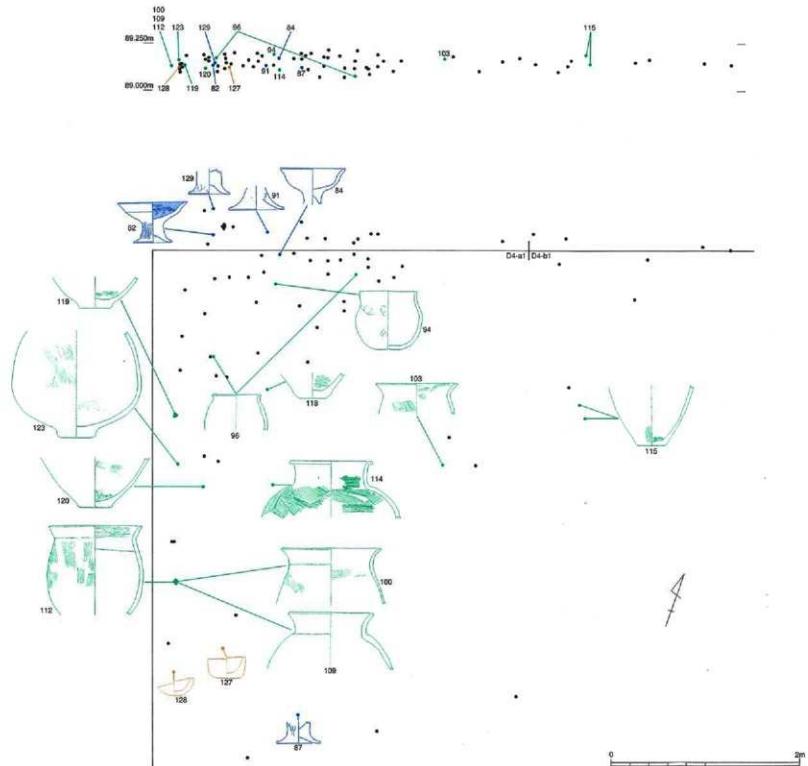
97～110は長胴の甕である。97・98は、口縁部径に対し、胴部径が大きい。97は頸部のくびれが弱く、口縁がわずかに外傾しながら立ち上がる。98は、頸部がくびれ、口縁が外傾して立ち上がる。99は、胴部径と口縁部径にはほとんど差がないと思われる。頸部のくびれは弱く、口縁が外側に開く。100は、頸部が緩やかにくびれ、口縁は直線的に外傾して立ち上がる。101は、口縁部径と胴部径がほぼ同じである。頸部がくびれ口縁部が外反する。102は、胴部が直立し、口縁部が外反して立ち上がる。かなり大型である。頸部には屈曲点を持つ。103は、頸部に屈曲点がみられ、口縁が外反する。104は、頸部に屈曲点がみられ、口縁が外傾して直線的に立ち上がる。胴部は若干張り出す。105は直立的な胴部に、口縁が外側に開きながら立ち上がる。頸部には屈曲点が見られる。106は、頸部がくびれる。107は、肩部に稜を有し、口唇部は平滑に仕上げられている。108は肩部にわずかに稜を有する。口縁部は、くびれながら短く立ち上がる。109は、肩部に明瞭な稜を有するものである。胴部が張り出す。口縁は外反しながら立ち上がる。110は、頸部がくびれ、肩部に稜を有する。胴部は張り出しが弱く直線的である。

111～114は丸胴の甕である。111は、厚手で頸部がくびれ、口縁部が外傾して立ち上がる。112は、頸部が縮まり屈曲点を有し、口縁が外傾して立ち上がる。胴部が若干張り出す。113は、肩部に明瞭な稜を有し、胴部が大きく張り出し、胴部最大径はやや上位にある。口縁は、外反して立ち上がる。114は、口縁部が直立する。端部は、折り返し口縁となっている。胴部は大きく張り出す。115～121、123は甕の底部である。115・116は底部からそのまま胴部が立ち上がるものである。117～121・123は、底部が直立してから胴部が立ち上がる。121は胴部最大径がほぼ中央、123は下位にある。122は無底式の甕である。

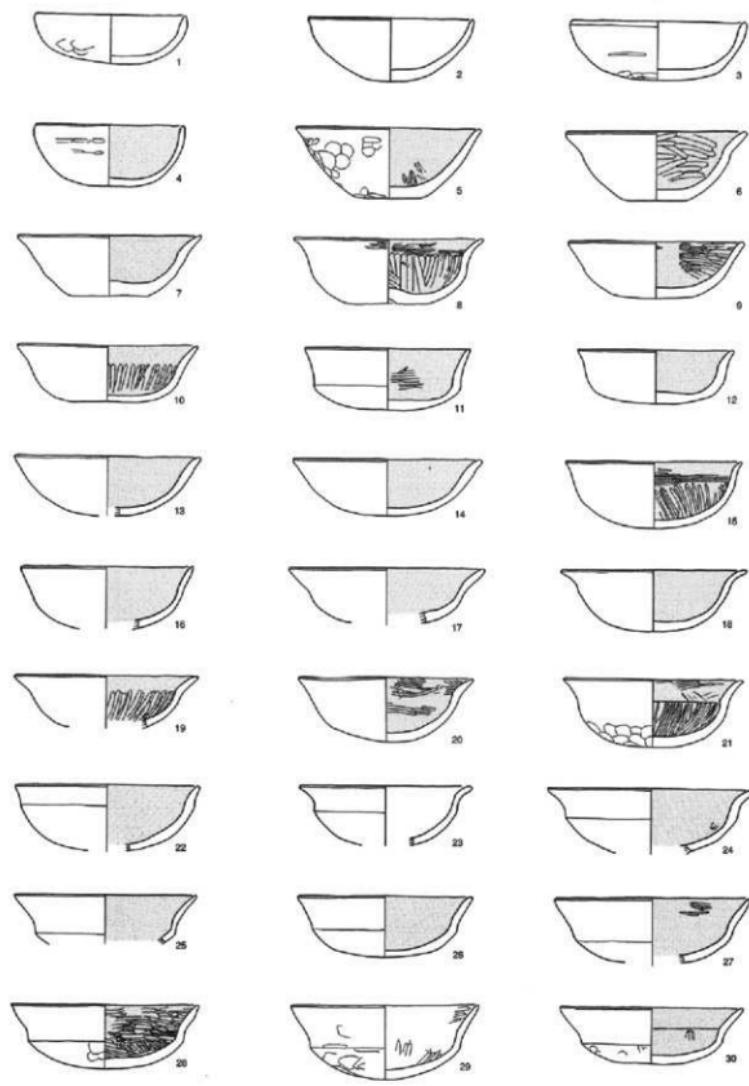
124～129は、ミニチュア土器である。129は、高坏を模したものである。



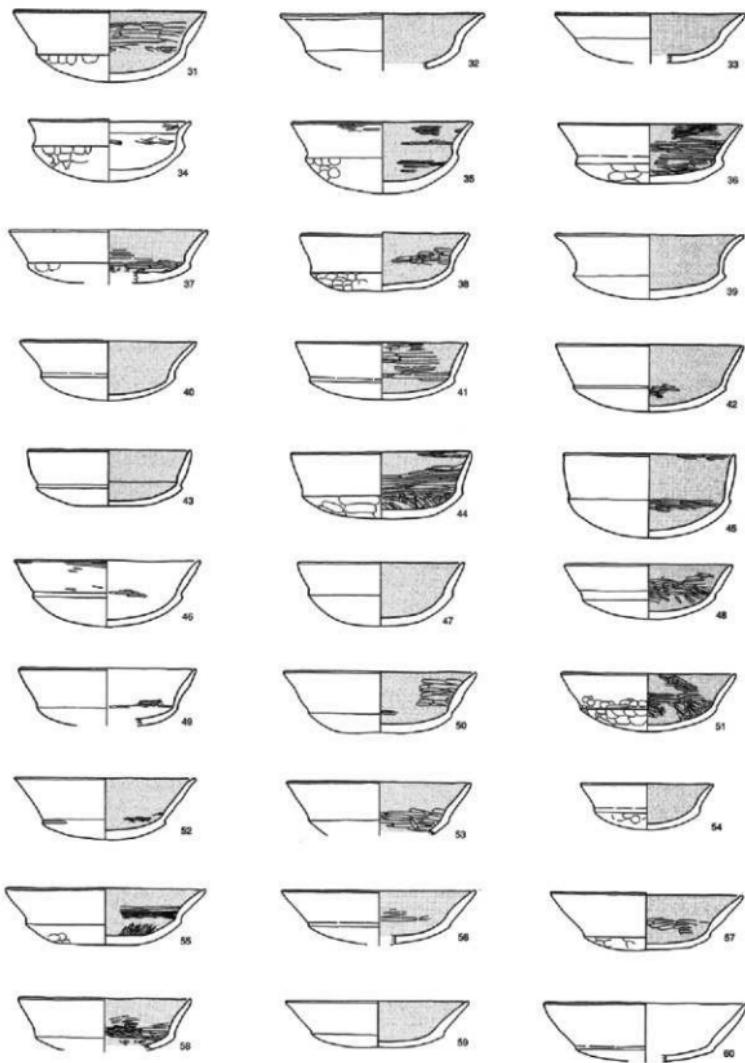
第18図 遺物集中区遺物分布図(1)



第19図 遺物集中区遺物分布図(2)

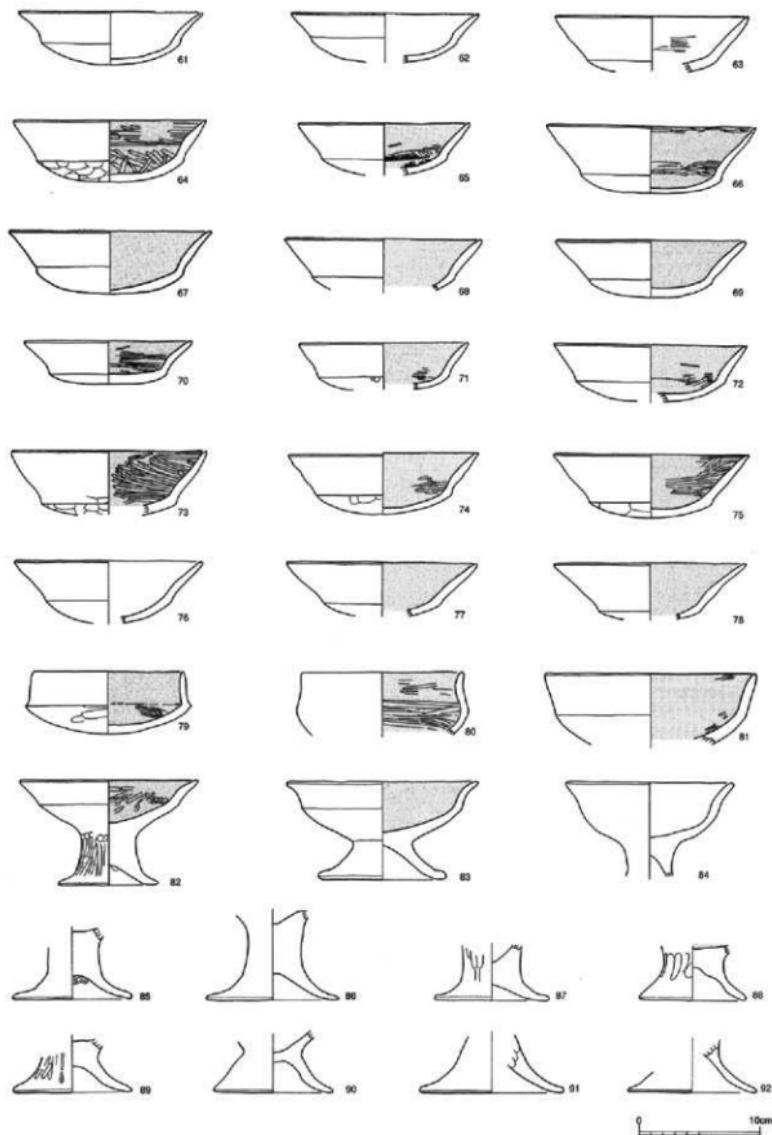


第20図 遺物集中区出土遺物(1)

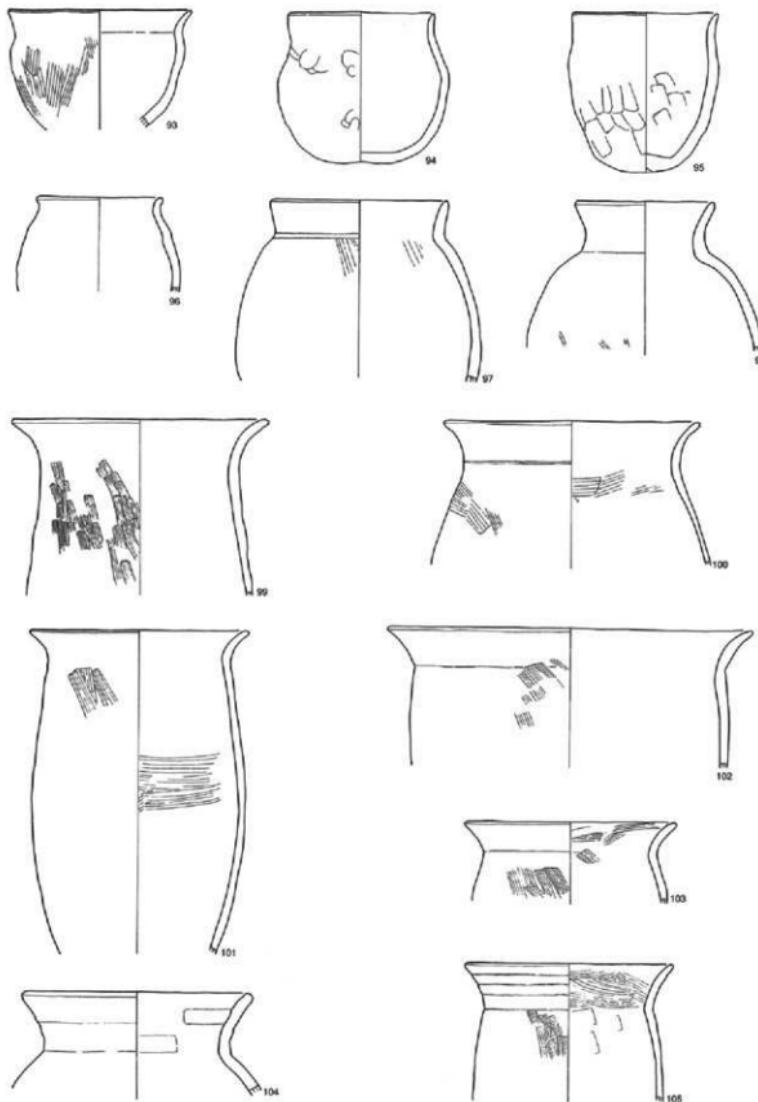


0 10cm

第21図 遺物集中区出土遺物(2)

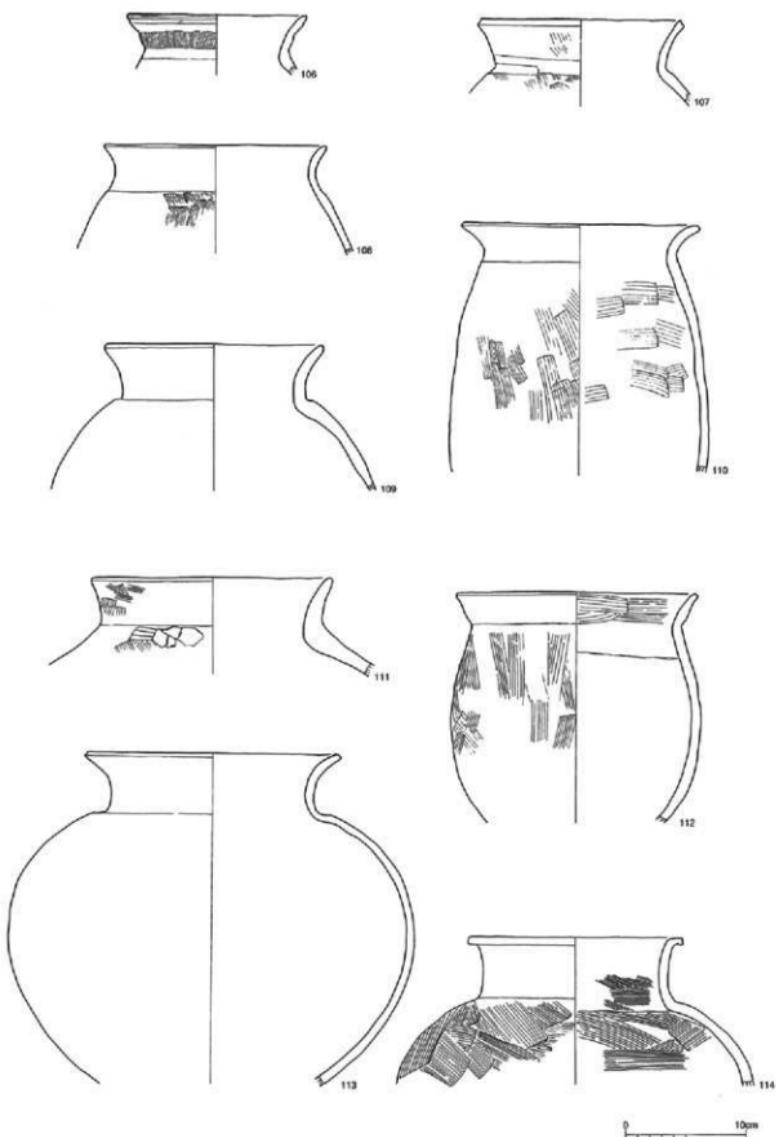


第22図 遺物集中区出土遺物(3)

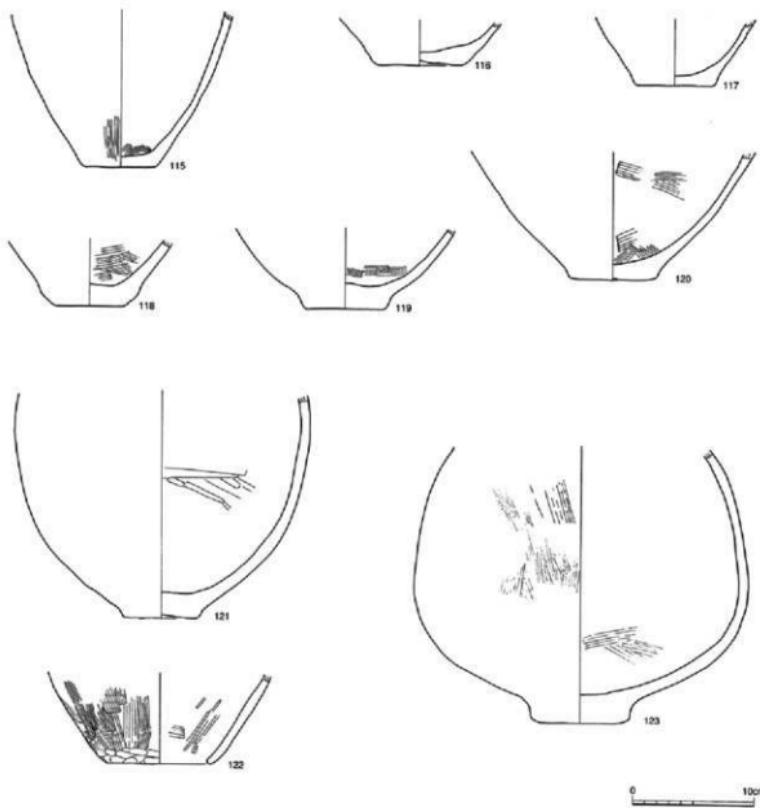


第23図 遺物集中区出土遺物(4)

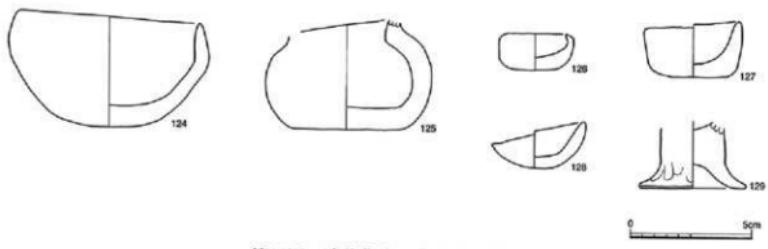
0 10cm



第24図 遺物集中区出土遺物(5)



0 10cm



0 50cm

第25図 遺物集中区出土遺物(6)

#### 第4節 遺構外出土遺物（第26図）

遺構外から出土した遺物について、13点図示した。なお、これらの遺物は調査区一括で取り上げたものであり、出土位置については不明である。

1・2は壊である。1は、口縁部下端に直立部を形成し、口縁部は外傾する。2は、外面に段を有し口縁部が外傾して立ち上がる。いずれも、内面黒色処理が施されている。

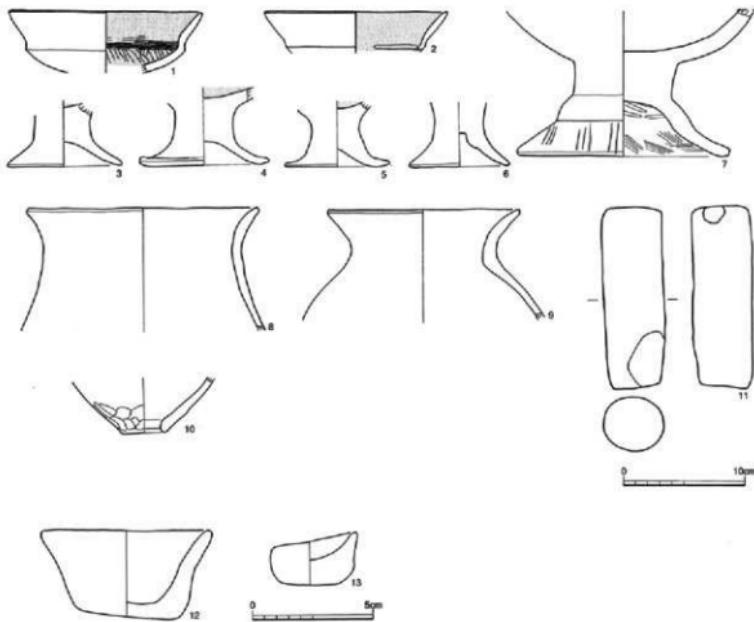
3～7は高壊である。脚上部が直立的で、裾部が八字状に開く。3～5は壊部内面に黒色処理が施されている。7はかなり大型である。脚部に段を有する。

8・9は甕である。8は、頸部のくびれが弱く、口縁が外反して立ち上がる。9は頸部がくびれ、胴部が張り出す。

10は、無底式の甕である。

11は、粘土を棒状に焼成したものである。カマド支脚であろうか。

12・13は、ミニチュア土器である。



第26図 遺構外出土遺物

## 第IV章 まとめ

西沼田遺跡は、昭和60年度の調査により、史跡指定地中心部に居住域が存在することが明らかとなった。本調査では、その周辺部、居住域南側における遺構・遺物の分布状況の確認を目的として発掘調査を実施した。

調査の結果、河川跡、溝跡等を確認し、合わせて居住域の南限を明らかにすることができたほか、下記の成果を得ることができた。

### (1) 河川跡

- 河川跡内からは、自然木のほか多くの建築部材が出土した。その中には、柱材、板材、土台木等の加工された部材が出土している。これらの部材の近辺からは打込杭も検出されており、加工された部材が単なる流れ込みではなく、打込杭とセットとなり何らかの遺構を構成していた可能性が考えられる。
- 河川北側で土台木が出土している。昭和60年度の調査で検出された建築部材は加工が施されていないものがほとんどであり、その点でこれまでのものと異なる。未加工のものに比べて、土台木を使用した建物は、從来知られていたものと比較してより高度のなものであると想定される。
- 河川南側(D4-a・b6区)では、上記の打込杭、建築部材に伴って完形・半完形の土器群が出土している。これらは、平底で外面に稜を形成しない坏、短脚で八字状に大きく開く脚部を有する高坏で占められ、器種構成が供膳具に偏るという特徴がある。また、桃の核が径約15cmの範囲からまとまって出土していることから、同地域が水場に関する祭祀遺構であった可能性も想定される。
- これらの一括土器群は、南小泉式～引田式に比定される土器群であり、これまで西沼田遺跡から出土した土器の中でも最も古い部分に属する。出土位置は、覆土第2層下部もしくは第3層直上からの出土であり、河川の利用開始時期に関する上限年代を与えてくれるものである。

### (2) 遺物集中区

- 1m程の範囲から、図示できたものだけでも100点を超える土器が出土している。なお、分布はさらに北西に延びている。器種構成、時期とともに多様な土器が出土している。
- 出土した土器群の特徴を概観すると、坏は、丸底で口縁部が内湾するもの、外面に稜を形成し口縁が外反するもの、稜が弱くその位置が底部付近に近づくとともに、体部から口縁部にかけて外側に大きく開くもの等が出土している。また、甕の形態も、頸部のくびれの有無、頸部の稜形成等特徴がみられる。
- 分布状況をみると、それぞれの器種単位で分布がずれることが特徴的である。概報で

は、廃棄されたものというよりは、祭祀的な性格をもつものではないかとしたが、出土土器が多時期にわたること、居住域縁辺部に設けられていること等を勘案すると、器種単位もしくは廃棄単位で場所を変えながら、遺跡の開始期から終末まで継続的に利用された捨て場とするのが妥当と考えられる。

今回の調査では、上記のような成果を得ることができた。しかしながら、遺跡全体の様相を明らかと/orするためには、前後の調査成果を合わせたさらなる検討が必要であろう。

今後も継続的に整理作業、報告書の刊行を行い、徐々に検討していきたいと考えている。

#### 引用・参考文献

阿部明彦1987『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書(2)』山形県埋蔵文化財調査報告書第107集

伊藤邦弘1994「南原遺跡」「南原遺跡・堂の下遺跡・飯塚遺跡」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第2集

氏家和典1957「東北土師器の型式分類とその編年」歴史第14輯

白鳥・古川1991「2 土師器の編年 9 東北」『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣

中田茂司1997「東北・北海道における古墳時代中・後期土器様式の編年」『日本考古学第4号』日本考古学協会

長橋・名和1986『西沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第101集

渡辺泰伸1991「3 須恵器の編年 9 東北」『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣

第1表 河川跡出土土器観察表

地図 No.	出土地区 No.	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	調査	施土	焼成	色	調査	焼成度	備考
13-1	96	D4-15	土鍋	坪	50	147	132	50	外壁 内面 底面 不明	砂粒少 精良好	外壁 内面 底面 黄褐色	70%	
13-2	53	D4-15	土鍋	坪	67	67	67	外壁 内面 底面 不明	砂粒多 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	80%		
13-3	22	D4-15	土鍋	坪	150	50	65	外壁 内面 底面 ハケヌメ	砂粒少 精良	外壁 内面 底面 黄褐色	100%		
13-4	75	D4-15	土鍋	坪	150	58	59	外壁 内面 底面 不明	砂粒多 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	70%		
13-5	12	D4-15	土鍋	坪	142	—	36	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛	砂粒少 不良	外壁 内面 底面 黄褐色	90%		
13-6	8	D4-15	土鍋	坪	96	96	96	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	90%		
13-7	64	D4-15	土鍋	坪	(138)	(147)	—	外壁 内面 ハケヌメ	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	30%		
13-8	15	D4-15	土鍋	高坪	149	108	96	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛、脚部内面ハラケヅリ	砂粒少 精良	外壁 内面 底面 黄褐色	90%		
13-9	9	D4-15	土鍋	高坪	142	96	96	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛	砂粒多 不良	外壁 内面 底面 黄褐色	80%		
13-10	17	D4-15	土鍋	高坪	158	108	91	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛、ハラケヅリ	砂粒多 精良好	外壁 内面 底面 黄褐色	70%		
13-11	25	D4-15	土鍋	高坪	145	96	80	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛、脚部外側ハラミガナ牛	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	70%		
13-12	165	D4-15	土鍋	高坪	(147)	(96)	83	外壁 内面 底面 不明	砂粒多 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	40%		
13-13	164	D4-15	土鍋	高坪	(141)	81	82	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛	砂粒多 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	50%		
13-14	14	D4-15	土鍋	高坪	148	95	88	外壁 内面 底面 ハラケヅリ	砂粒多 不良	外壁 内面 底面 黄褐色	85%		
13-15	40	D4-15	土鍋	高坪	154	104	78	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	80%		
13-16	13	D4-15	土鍋	高坪	148	102	94	外壁 内面 底面 ハラミガナ牛	砂粒少 精良好	外壁 内面 底面 黄褐色	90%	内面が形の可能性あり	
13-17	51	D4-15	土鍋	高坪	140	—	—	外壁 内面 底面 不明	砂粒少 不良	外壁 内面 底面 黄褐色	60%		
13-18	145	D4-15	土鍋	高坪	—	81	—	外壁 内面 底面 不明	砂粒多 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	60%		
13-19	149	D4-15	土鍋	高坪	—	90	—	外壁 内面 底面 不明	砂粒多 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	40%		
13-20	150	D4-15	土鍋	高坪	—	98	—	外壁 内面 底面 ハラケヅリ	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	40%		
13-21	117	D4-15	土鍋	高坪	(165)	—	—	外壁 内面 底面 不明	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	30%		
13-22	114	D4-15	土鍋	裏?	(165)	—	—	外壁 内面 底面 不明	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	30%以下		
13-23	166	D4-15	土鍋	裏	(132)	—	—	外壁 内面 底面 不明	砂粒多 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	30%		
14-24	50	D4-c1	土鍋	坪	(153)	(116)	(65)	外壁 内面 底面 ヨコナミガナ牛	砂粒少 良好	外壁 内面 底面 黄褐色	50%		
14-25	37	D4-c1	土鍋	坪	158	109	—	外壁 内面 底面 ヨコナミガナ牛	砂粒少 精不良	外壁 内面 底面 黄褐色	30%		
14-26	59	D4-c1	土鍋	裏	(178)	69	121	外壁 内面 底面 不明	砂粒多 精良好	外壁 内面 底面 黄褐色	60%		

第2表 遺物集中区出土土器観察表(1)

標	回	年	出土地	種別	形	柄	幅	口	径	底	高	量	重	量	容	胎	土	施	成	色	調	遺存度	備	考
20-1	47	D4-a1	土師器	壺			125	41	41	外腹	目コナデ、ヘラケツリ				砂粒少	良好	外腹	黒	小ちぬ褐色		90%			
20-2	139	D4-a1	土師器	壺			(136)	-	52	外腹	不明				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	黄褐色	50%			
20-3	160	D4-a1	土師器	壺			140	-	49	外腹	ミガキ、ケツリ				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	黄褐色	50%			
20-4	134	D4-a1	土師器	壺			122	-	50	外腹	ミガキ、ナデ				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	黄褐色	70%			
20-5	28	D4-a1	土師器	壺			154	54	57	外腹	ベテクゼグリ				砂粒稍多	稍不良	外腹	灰褐色	内腹	黑褐色	60%			
20-6	6	D4-a1	土師器	壺			146	50	51	外腹	ヨコナデ				砂粒稍多	稍不良	外腹	褐褐色	内腹	黑褐色	80%			
20-7	5	D4-a1	土師器	壺			148	60	49	外腹	不明				砂粒多	不良	外腹	口縁黒色から黄褐色	内腹	内腹	90%			
20-8	36	D4-a1	土師器	壺			(155)	(67)	(54)	外腹	ヘラミガキ、ヨコナデ				砂粒少	稍不良	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%			
20-9	39	D4-a1	土師器	壺			(144)	-	(47)	外腹	不明				砂粒多	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	50%			
20-10	67	D4-a1	土師器	壺			(147)	(53)	(40)	外腹	ヘラミガキ				砂粒稍多	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%			
20-11	93	D4-a1	土師器	壺			(135)	(120)	(50)	外腹	不明				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	60%			
20-12	55	D4-a1	土師器	壺			(128)	98	45	外腹	ヘラミガキ				砂粒稍多	稍良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	60%			
20-13	167	D4-a1	土師器	壺			(153)	-	-	外腹	不明				砂粒稍多	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%			
20-14	96	D4-b1	土師器	壺			(154)	-	-	外腹	不明				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	50%			
20-15	4	D4-a1	土師器	壺			142	-	55	外腹	不明(ヨコナデの可能性あり) 附文様のヘラミガキ				砂粒少	稍不良	外腹	黄褐色	内腹	内腹	80%			
20-16	138	D4-a1	土師器	壺			(141)	-	-	外腹	不明				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%			
20-17	88	D4-a1	土師器	壺(高杯)			(150)	-	-	外腹	不明				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%			
20-18	142	D4-a1	土師器	壺			(152)	-	59	外腹	不明				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%			
20-19	68	D4-a1	土師器	壺			(151)	-	-	外腹	不明				砂粒稍多	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%			
20-20	23	D4-a1	土師器	壺			144	-	53	外腹	ヘラミガキ、ハナメ				砂粒多	稍不良	外腹	黄褐色	内腹	内腹	80%			
20-21	7	D4-a1	土師器	壺			144	-	54	外腹	ヘラミガキ				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	80%			
20-22	71	D4-a1	土師器	壺			(151)	-	-	外腹	ヨコナデ				砂粒少	良好	外腹	黄褐色	内腹	内腹	40%	火化骨面		

第2表 遺物集中区出土土器観察表(2)

件 号 No.	場 所 No.	出士区 域	種 別	器 種	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高 さ (cm)	形 態	胎 土	焼 成	色 調	遺存度	備 考
20-23	144	D4-a1	土師器	杯	(141)	(115)	-	外腹 ナデ 内腹 不明	砂粒 少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	40%	
20-24	87	D4-a1	土師器	杯(底扩)	(170)	(140)	-	外腹 ヨコナデ 内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	?	
20-25	65	D4-a1	土師器	杯	(149)	(116)	-	外腹 ヨコナデ 内腹 不明	砂粒少	良好	外面 黒色から黄褐色 内腹 黄褐色	30%	
20-26	78	D4-a1	土師器	杯	144	119	50	外腹 ナデ 内腹 不明	砂粒 少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	70%	
20-27	161	D4-a1	土師器	杯	(161)	-	-	外腹 ヨコナデ 内腹 ミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	30%	
20-28	10	D4-a1	土師器	杯	152	124	51	内腹 ヨコナデ 外腹 ヘラミガキ、ヘラゲアリ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	80%	
20-29	43	D4-a1	土師器	杯	154	123	61	外腹 ヘラケアリ 内腹 ヨコナデ	砂粒 少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	60%	
20-30	41	D4-a1	土師器	杯	(150)	(115)	47	内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	50%	
21-31	18	D4-a1	土師器	杯	157	113	59	外腹 ヘラケアリ 内腹 ミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色から黄褐色 内腹 黄褐色	80%	
21-32	81	D4-a1	土師器	杯	(168)	(121)	-	外腹 ヨコナデ 内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	40%	
21-33	97	D4-b1	土師器	杯	(156)	-	-	外腹 ナデ 内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	60%	
21-34	16	D4-a1	土師器	杯	135	124	53	外腹 ヨコナデ 内腹 ヘラミガキ	砂粒 少	良好	外面 黄褐色から黄褐色 内腹 黄褐色	80%	
21-35	33	D4-a1	土師器	杯	149	126	60	外腹 ヨコナデ 内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	70%	
21-36	2	D4-a1	土師器	杯	148	118	49	内腹 ヨコナデ 外腹 ヘラケアリ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	60%	
21-37	70	D4-a1	土師器	杯	(163)	(133)	-	内腹 ヨコナデ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	40%	
21-38	29	D4-a1	土師器	杯	136	116	47	外腹 ヘラケアリ 内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	80%	
21-39	135	D4-a1	土師器	杯	(156)	(125)	53	外腹 ヨコナデ 内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	40%	
21-40	64	D4-a1	土師器	杯	(145)	(110)	(49)	外腹 ヨコナデ 内腹 ヘラミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	60%	
21-41	76	D4-a1	土師器	杯	(141)	119	47	外腹 ヨコナデ 内腹 ミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	70%	
21-42	141	D4-a1	土師器	杯	(156)	(124)	(65)	外腹 ヨコナデ 内腹 ミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	30%	
21-43	137	D4-a1	土師器	杯	(154)	(119)	(66)	外腹 ヨコナデ 内腹 ミガキ	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内腹 黄褐色	50%	
21-44	1	D4-a1	土師器	杯	145	129	54	外腹 ヨコナデ 内腹 ミガキ	砂粒少	良好	外面 灰褐色～黄褐色 内腹 黄褐色	100%	

第2表 遺物集中区出土土器觀察表(3)

神 田 施 工 所	出土地 名	出土地 種 別	面 形	口 径 (mm)	底 径 (mm)	高 度 (mm)	調 査	整 成	出 土	地 成	色 調	透 度	備 考
21-45 140	D4-1	土師器 壺		(140)	(132)	69	外側 ナデ ミガキ	砂粒少	外面 黄褐色、一層黒色 内面 黑		30%		
21-46 159	D4-1	土師器 壺		(132)	(65)	外側 ナデ ミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		40%			
21-47 166	D4-1	土師器 壺		(137)	(118)	53	外側 不明 内面 不明	砂粒多	外面 黄褐色 内面 黑		30%		
21-48 133	D4-1	土師器 壺		138	117	46	外側 ナデ ミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		80%		
21-49 143	D4-1	土師器 壺		(145)	(115)	-	外側 ナデ ミガキ	砂粒少	外面 黄褐色、一層黒色 内面 黄褐色		30%		
21-50 27	D4-1	土師器 壺		(153)	(50)	116	外側 ハラミガキ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		50%		
21-51 31	D4-1	土師器 壺		144	112	48	外側 ベラクゼリ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		80%	外面に黒斑痕	
21-52 132	D4-1	土師器 壺		149	101	52	外側 ハラミガキ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		80%		
21-53 79	D4-1	土師器 壺		(151)	(115)	-	外側 ハラミガキ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		30%		
21-54 58	D4-1	土師器 2-チュニア土器 (Hc)		(109)	(86)	38	外側 ケズリ 内面 不明	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		50%		
21-55 34	D4-1	土師器 壺		164	127	45	外側 ハラミガキ、ヘラクゼリ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		60%		
21-56 89	D4-1	土師器 壺		(159)	(116)	-	外側 不明 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		30%		
21-57 24	D4-1	土師器 壺		156	102	49	外側 ヨコナデヘルタズ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		70%		
21-58 85	D4-1	土師器 壺		(142)	(114)	-	外側 ヨコナデ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		30%		
21-59 74	D4-1	土師器 壺		(149)	(106)	48	外側 不明 内面 不明	砂粒少	外面 黄褐色～黒色 内面 黑		40%	内面火入火痕	
21-60 80	D4-1	土師器 壺		167	111	-	外側 ハラミガキ 内面 不明	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		50%		
22-61 54	D4-1	土師器 壺		151	113	43	外側 不明 内面 不明	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		60%		
22-62 98	D4-1	土師器 壺		(154)	(121)	-	外側 不明 内面 不明	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		60%		
22-63 36	D4-1	土師器 壺		158	106	-	外側 ハラミガキ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		70%		
22-64 19	D4-1	土師器 壺		158	129	50	外側 ヨコナデヘルタズ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		80%		
22-65 84	D4-1	土師器 壺		(141)	(103)	-	外側 不明 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 黄褐色 内面 黑		30%		
22-66 11	D4-1	土師器 壺		166	112	54	外側 ヨコナデヘルタズ 内面 ハラミガキ	砂粒少	外面 口縁部黒色、全体黄褐色 内面 黑		70%		

第2表 遺物集中区出土土器観察表(4)

件 号 No.	属 類 No.	出土地 区	種 別	器 形	口 径 (mm)	底 径 (mm)	高 度 (mm)	測 定	圖	燒 成	胎 土	色 調	施 表 面	備 考
22-67	136	D4-11	土師器	杯	(165)	(119)	(52)	外面 不明 内面 不明		砂粒稍多 外圈 黄褐色 内圈 一層黑色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	40%
22-68	92	D4-11	土師器	杯	160	117	—	外圈 不明 内面 不明		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	60%
22-69	77	D4-11	土師器	杯	150	100	47	外圈 不明 内面 不明		砂粒稍多 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	70% 火八半度
22-70	83	D4-11	土師器	杯	(137)	(90)	(46)	外圈 不明 内面 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	40%
22-71	73	D4-11	土師器	杯	(138)	(106)	—	外圈 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	20%
22-72	91	D4-11	土師器	杯	(156)	(121)	—	外圈 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	50%
22-73	26	D4-11	土師器	杯	(165)	—	(111)	外圈 ハツメ、ヘラケズリ、ヨコナデ 内面 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	30%
22-74	21	D4-11	土師器	杯	154	111	51	外圈 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	70% 外面に輪郭線
22-75	3	D4-11	土師器	杯	156	98	53	外圈 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	60%
22-76	82	D4-11	土師器	杯	(149)	(103)	—	外圈 不明 内面 不明		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	70%
22-77	52	D4-11	土師器	杯	155	98	—	外圈 不明 内面 不明		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	40% 火八半度
22-78	72	D4-11	土師器	杯	(157)	(83)	—	外圈 ヨコナデ 内面 不明		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	30% 火八半度
22-79	49	D4-11	土師器	杯	(122)	(136)	(52)	外圈 ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	70%
22-80	69	D4-11	土師器	杯	(132)	—	—	外圈 ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	30%
22-81	86	D4-11	土師器	杯	(173)	(156)	—	外圈 ヘラミガキ 内面 ヨコナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ		砂粒稍多 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	40%
22-82	26	D4-11	土師器	高杯	146	82	85	外圈 ヘラミガキ、ヘラケズリ 内面 ヨコナデ、ヘラミガキ		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	70%
22-83	169	D4-11	土師器	高杯	(157)	(101)	79	外圈 不明 内面 不明		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	50%
22-84	100	D4-11	土師器	高杯	(156)	—	—	外圈 不明 内面 不明		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	40%
22-85	154	D4-11	土師器	高杯	—	(58)	—	外圈 不明 内面 頂部ハケメ		砂粒稍多 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	30%
22-86	151	D4-11	土師器	高杯	—	(169)	—	外圈 不明 内面 不明		砂粒少 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	50%
22-87	99	D4-11	土師器	高杯	—	94	—	外圈 不明 内面 不明		砂粒稍多 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	30% 腹部火痕
22-88	45	D4-11	土師器	高杯	—	88	—	外圈 不明 内面 不明		砂粒多 外圈 黄褐色 内圈 黄褐色	良好	外圈 内圈	外圈 内圈	30%

第2表 遺物集中区出土土器観察表(5)

種類	基盤	出土地区	種別	器種	口径	底径	高さ	調査番号	性	地成	地	面	遺存度	備考
神田 Kita	153	D4-11	土器器	高杯	-	(96)	-	外腹 脚底3方半	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 灰褐色内面、脚底黄褐色	40%	
22-89	146	D4-11	土器器	高杯	-	98	-	内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	50%	
22-90	146	D4-11	土器器	高杯	-	(113)	-	外腹 不明	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	20%	
22-91	156	D4-11	土器器	高杯	-	106	-	外腹 不明	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	40%	
22-92	148	D4-11	土器器	高杯	-	151	-	外腹 ハケヌ、ヘラケヌリ	砂粒多	良好	外腹 内面	黄褐色から赤褐色 黄褐色から赤褐色	70%	
23-88	44	D4-11	土器器	盃	120	-	123	ハケヌ、ハケヌリ、ハケヌ	砂粒多	不良	外腹 内面	黄褐色から灰褐色 黄褐色	80%	
23-94	32	D4-13	土器器	盃	130	62	131	ヨコナヌ、ヘラケヌリ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黑色子少	60%	
23-95	48	D4-11	土器器	盃	104	-	-	内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	50%	
23-96	111	D4-11	土器器	甕	(146)	-	-	外腹 ハケヌ、ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	30%以下	
23-97	112	D4-11	土器器	甕	115	-	-	外腹 ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	30%以下	
23-98	107	D4-11	土器器	甕	211	-	-	外腹 ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	50%以下	
23-99	127	D4-11	土器器	甕	(210)	-	-	外腹 ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	20%以下	
23-100	113	D4-11	土器器	甕(直)	(180)	-	-	外腹 ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	40%	
23-101	128	D4-11	土器器	甕(直)	(202)	-	-	外腹 ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	20%	
23-102	129	D4-11	土器器	甕	(174)	-	-	外腹 ハケヌ、ナデ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	10%	
23-103	122	D4-11	土器器	甕	190	-	-	外腹 ハケヌ、ナデ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	10%	
23-104	123	D4-11	土器器	甕	(171)	-	-	外腹 ハケヌ、ヘラナデ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	20%	外腹に輪状痕
23-105	125	D4-11	土器器	甕(直)	(147)	-	-	外腹 ミガキ、ナデ-ハケヌメ-ナデ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	20%以下	
24-106	108	D4-11	土器器	甕	(170)	-	-	外腹 ナチ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	20%以下	
24-107	103	D4-11	土器器	甕	(182)	-	-	外腹 ハケヌ、ナチ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	10%	
24-108	124	D4-11	土器器	甕	(180)	-	-	外腹 ナチ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	20%	
24-110	109	D4-11	土器器	甕(直)	(194)	-	-	外腹 ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 内面	黄褐色 黄褐色	30%	

第2表 遺物集中区出土土器観察表(6)

地 名 K. No.	層 別 層 理	出上区 域	種 別	面 種	口徑 (mm)	底径 (mm)	高 度 (mm)	器 高 (mm)	圖	質	胎 土	燒 成	色 調	遺存狀 態	備 考
24-111 125	D4-a1	土師器	甕	-	198	-	内面 ハケヌ、ナガヌ	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	20%	外面白口瓶底。調整後 格士甕D4-a1成形	
24-112 110	D4-a1	土師器	甕	-	197	-	内面 ハケヌ	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	40%		
24-113 130	D4-a1	土師器	甕	-	204	-	外腹 不明	-		砂粒稍多	良好	黄褐色 黄灰褐色	60%		
24-114 38	D4-a1	土師器	甕	-	178	-	内面 ハケヌ	-		砂粒多	稍好	黄褐色 黄褐色	10%		
25-115 165	D4-a1	土師器	甕	-	58	-	内面 ハケヌ	-		砂粒稍多	稍好	黄褐色 黄褐色	30%以下		
25-116 121	D4-a1	土師器	甕	-	69	-	外腹 不明	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	10%		
25-117 163	D4-a1	土師器	甕	-	64	-	内腹 不明	-		砂粒稍多	良好	黄褐色 黄褐色	10%		
25-118 120	D4-a1	土師器	甕	-	55	-	内面 ハケヌ	-		砂粒稍多	良好	黄褐色 黄褐色	10%		
25-119 119	D4-a1	土師器	甕	-	64	-	外腹 不明	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	10%		
25-120 115	D4-a1	土師器	甕	-	74	-	外腹 不明	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	20%		
25-121 162	D4-a1	土師器	甕	-	55	-	内面 ハケヌ	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	20%		
25-122 104	D4-a1	土師器	甕	-	84	-	内面 ハケヌ、タツキ	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	20%以下		
25-123 131	D4-a1	土師器	甕	-	81	-	内面 ハケヌ	-		砂粒稍多	良好	黄褐色 黄褐色	40%		
25-124 56	D4-a1	土師器	ミニチュア土器 (P)	ミニチュア土器	75	35	45	内腹 不明		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	60%		
25-125 57	D4-a1	土師器	ミニチュア土器 (P)	-	44	-	外腹 不明	-		砂粒少	良好	黄褐色 黄褐色	80%		
25-126 42	D4-a1	土師器	ミニチュア土器	26	18	15				砂粒少	稍不良	黄褐色 黄褐色	100%		
25-127 60	D4-a1	土師器	ミニチュア土器	39	32	21	外腹 不明			砂粒稍多	稍良好	黄褐色 黄褐色	100%		
25-128 62	D4-a1	土師器	ミニチュア土器 (焼付)	40	10	15	外腹 不明			砂粒少	稍良好	黄褐色 黄褐色	100%	内面上釉痕迹	
25-129 51	D4-a1	土師器	ミニチュア土器 (焼付)	-	44	-	内腹 不明			砂粒少	稍良好	黄褐色 黄褐色	50%		

第3表 遺構外出土遺物觀察表

件 名 No.	施 設 名 No.	出土区 域	種 別	器 形	口 径 (mm)	底 径 (mm)	高 度 (mm)	圖 案	性 能	地 質	地 成	地 土	地 成	色 調	運 存 度	備 考
26-1	35	不明	土瓶器	杯	(158)	(150)	-	外腹 ヘラミガキ 内腹 ナカニ	妙粒少	良好	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	30%	
26-2	66	不明	土瓶器	杯	(150)	(114)	-	外腹 ヨコナガ 内腹 ナカニ	妙粒少	良好	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	30%	
26-3	155	不明	土瓶器	高杯	-	(59)	-	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	良好	外面 黄褐色	内面 内黑 内部内黑、脚部黄色	内面 内黑	内面 内黑	30%	
26-4	147	不明	土瓶器	高杯	-	106	-	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	良好	外面 黄褐色	内面 内黑 内部内黑、脚部黄色	内面 内黑	内面 内黑	50%	
26-5	152	不明	土瓶器	高杯	-	87	-	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	良好	外面 黄褐色	内面 内黑 内部内黑、脚部黄色	内面 内黑	内面 内黑	40%	
26-6	157	不明	土瓶器	高杯	-	(83)	-	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	良好	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	20%	
26-7	46	C4-g1	土瓶器	高杯	-	88	-	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	稍良好	外面 黄褐色	内面 内黑 小ら黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	30%	
26-8	102	不明	土瓶器	掌(皿)	(190)	-	-	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	稍不良	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	20%以下	
26-9	101	不明	土瓶器	掌	(158)	-	-	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	稍不良	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	20%以下	
26-10	118	不明	土瓶器	瓶	-	(36)	-	外腹 ケアリ 内腹 ナカニ	妙粒少	良好	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	10%以下	
26-11	163	不明	支撑	-	159	49	44	-	-	-	-	-	-	-	65%	
26-12	50	不明	土瓶器	三ニチユア土器	69	39	36	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	稍不良	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	100%	
26-13	63	不明	土瓶器	三ニチユア土器	34	21	18	外腹 不明 内腹 ナカニ	妙粒少	稍良好	外面 黄褐色	内面 内黑	内面 内黑	内面 内黑	100%	

# 写 真 図 版



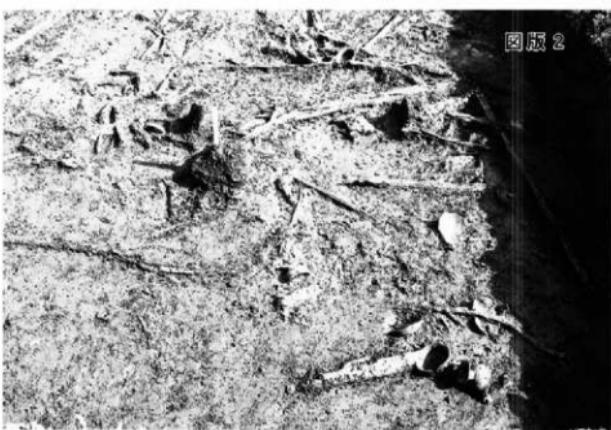
遺跡全景（東南より）



河川跡確認



河川跡検出状況



D4—a · b 6区遺物出土状況



D4—a 6区遺物出土状況(1)



D4—a 6区遺物出土状況(2)

D4—a 6区遺物出土状況(3)



D4—b 6区遺物出土状況



D4—b 6区桃の核出土状況





河川跡出土木材 (D4-b 5区)



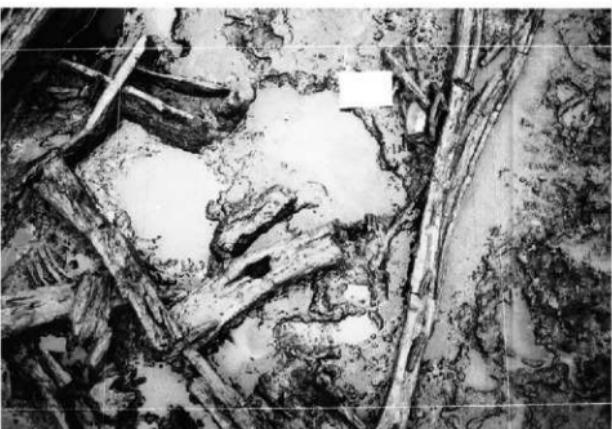
河川跡出土木材 (D4-b 5区)



河川跡出土木材 (D4-b 4区)



河川跡出土木材 (D4-c 3区)



土台木 (D4-c 1区)



炭化材ほか (D4-d 1区)



土台木 (D4-c 1区)



遺物集中区出土状况(1)



遺物集中区出土状况(2)



遗物集中区出土状况(3)



遗物集中区出土状况(4)



遗物集中区出土状况(5)



13-1



13-2



13-3



13-4



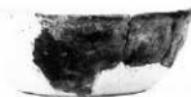
13-5



13-6



13-7



13-21



13-8



13-9

出土遺物(1)



13-10



13-11



13-14



13-15



13-12



13-13



13-16



13-17

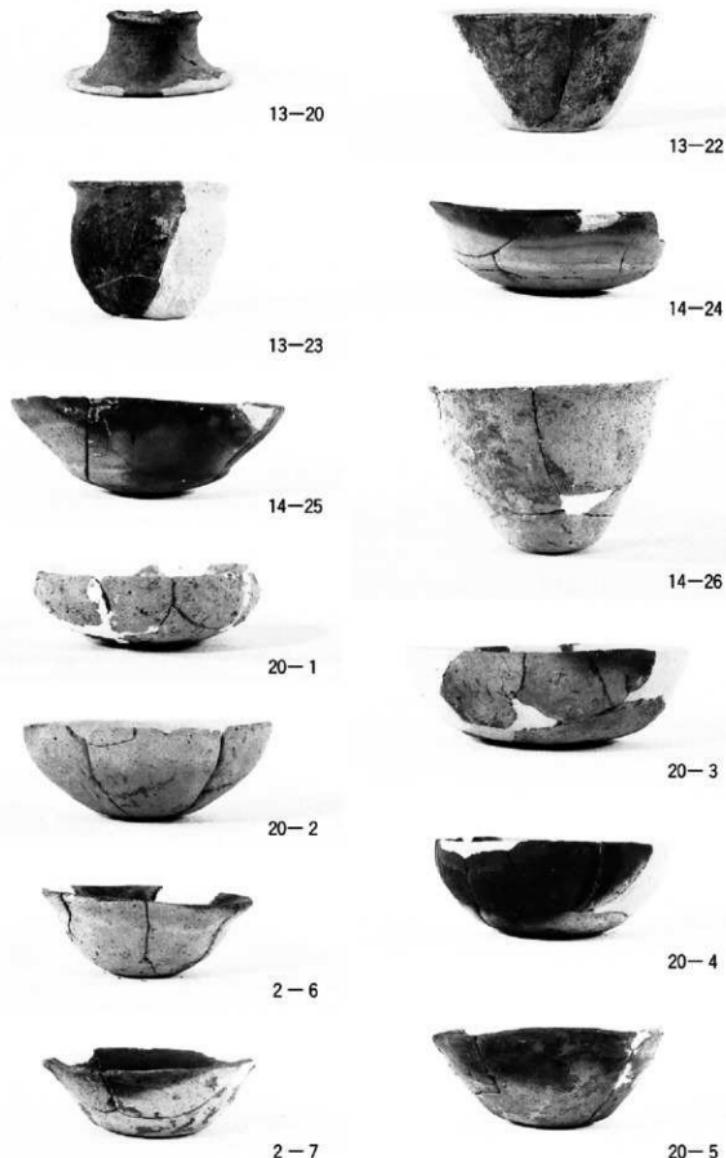


13-18

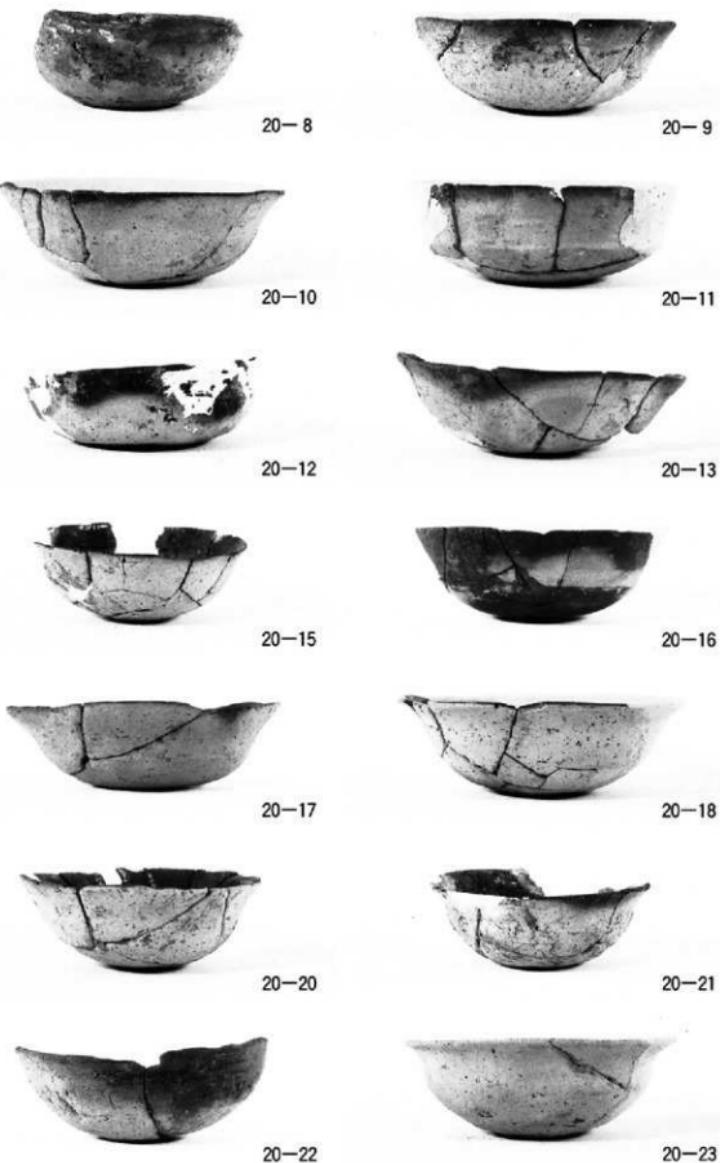


13-19

出土遺物(2)



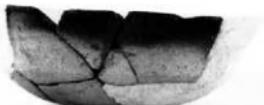
出土遺物(3)



出土遺物(4)



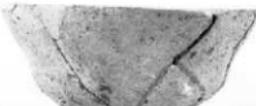
20-26



20-27



20-28



20-29



21-30



21-31



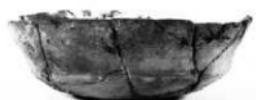
21-34



21-35



21-36



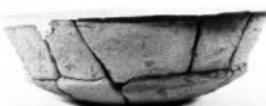
21-38



21-39



21-40



21-41



21-42

出土遺物(5)



21-43



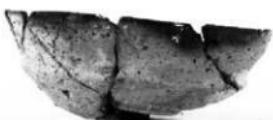
21-44



21-45



21-46



21-47



21-48



21-49



21-50



21-51



21-52



21-53



21-54



21-55



21-56

出土遺物(6)



21-57



21-59



21-60



22-61



22-62



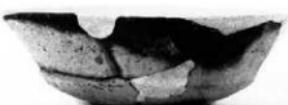
22-63



22-64



22-66



22-67



22-68



22-69



22-70



22-72



22-73

出土遺物(7)



22-74



22-75



22-76



22-77



22-78



22-79



22-82



22-83



22-85



22-87



22-84

出土遺物(8)



22-86



22-88



22-89



22-90



22-92



22-91



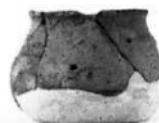
23-93



23-94



23-95



23-96

出土遺物(9)



23-97



23-98



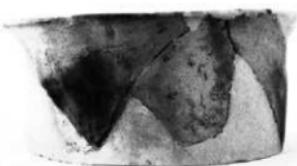
23-99



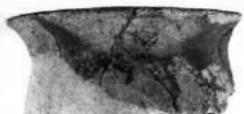
23-100



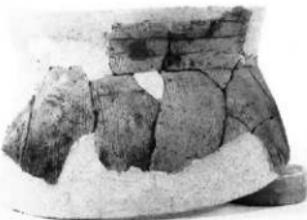
23-101



23-102

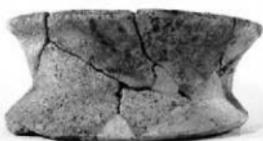


23-103



23-105

出土遺物(10)



24-104



24-106



24-107



24-108



24-109



24-112



24-110



24-111



24-113

出土遺物(1)



24-114



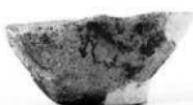
25-115



25-116



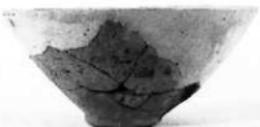
25-117



25-118



25-119



25-120



25-121



25-123



25-122

出土遺物(2)



25—124、125  
126、127  
128、129  
26—12、13



26—3



26—4



26—5



26—7



26—6



26—10



26—9



26—11



26—11

## 報告書抄録

ふりがな	てんどうしにしみまたいせき						
書名	天童市西沼田遺跡						
副書名	第Ⅰ次発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	天童市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第29集						
編著者名	押野一貴・山澤謙						
編集機関	天童市教育委員会						
所在地	〒994-8510 天童市老野森一丁目1番1号						
発行年月日	平成15年3月20日						
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				調査原因
西沼田遺跡	天童市大字矢野目字沼田地内	6210	344	38° 21' 24"	140° 20' 44"	1997.9.12~ 1997.12.1	720m <sup>2</sup> 史跡の保存・整備 計画に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
西沼田遺跡	集落跡	古墳時代	河川、溝跡	土師器、須恵器、木製品	特になし		

天童市埋蔵文化財発掘調査報告書第29集

天童市西沼田遺跡

-第Ⅰ次発掘調査報告書-

平成15年3月20日

---

編 集 天童市教育委員会

発 行 天童市教育委員会  
天童市老野森一丁目1番1号  
TEL 023-654-1111㈹

印 刷 中央印刷株式会社  
TEL 023-631-5533㈹

---